

3 環境分野

(1) 自然環境

年平均気温（2020年、青森市）	11.6℃	平均値 10.4℃
年降水量（　　　　　）	1,417.0 mm	平年値 1,300.1 mm
自然公園内観光地点の観光入込数（2019年）	7,808,079人	前年比 108,703人増
白神山地入込者数（2019年）	324,613人	前年比 23,729人増
民有林造林実績（2019年）	398ha	前年度比 19ha増

資料：気象庁観測データ、県環境生活部ほか

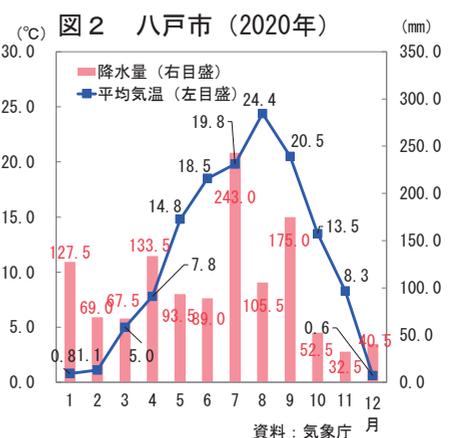
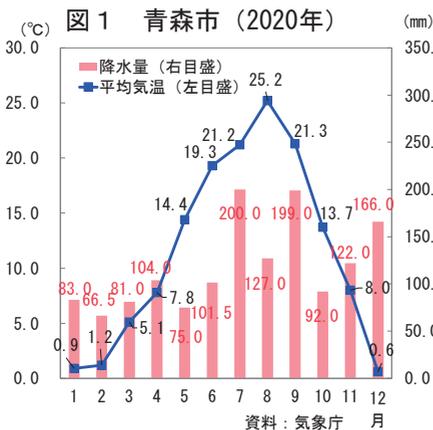
① 県土の概要

本県の総面積は、約 96 万 4,500ha であり国土の 2.6%を占め、全国第 8 位の大きさである。三方を海に囲まれ、内湾である陸奥湾があり、海岸線総延長は約 800km に及ぶ。本県全体の 65.6%が森林で、南西部に位置し、ブナ天然林の分布する広大な白神山地や、中央部に位置する八甲田連峰、十和田湖・奥入瀬溪流など、水と緑に囲まれた自然あふれる環境に恵まれている。

② 気候

本県は、三方向が海に面していることによる海流の影響と、奥羽山脈が県内を二分している地形の影響などから、県内でも地域によって気候が大きく異なる。

夏季は、太平洋側で、冷たく湿った偏東風である「ヤマセ」の影響で、低温・多湿の日が多くなる。冬季は、日本海側では大雪となり、太平洋側は乾燥した晴天の日が多くなり、奥羽山脈を境として、太平洋側のヤマセの影響と、日本海側の大雪が、本県の気候の特徴となっている。（図 1、図 2）



③ 大気環境

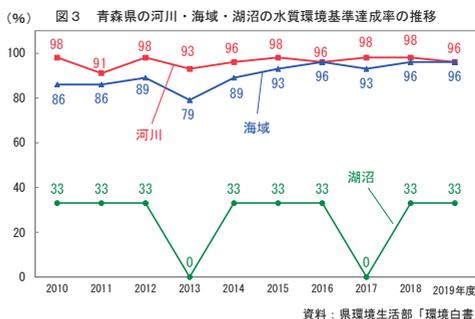
2019年度における本県の大気環境は、環境基準が定められている物質のうち、光化学オキシダント（6地点）を除いて環境基準を達成している。光化学オキシダントについては、全国的に環境基準を超過しており、成層圏オゾンの沈降による影響のほか、アジア大陸からの越境汚染の影響も原因として考えられている。

④ 水環境

2019年度調査の結果、河川では、有機性汚濁の代表的指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）が、類型指定されている56水域のうち54水域で環境基準を達成し、達成率は96%であった。

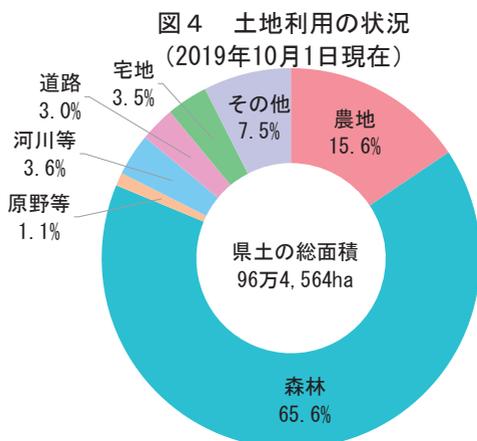
海域では同じく代表的指標であるCOD（化学的酸素要求量）が、類型指定されている28水域のうち27水域で環境基準を達成し、達成率は96%であった。

湖沼のCODについては、類型指定されている3水域（小川原湖、十和田湖、浅瀬石川ダム貯水池）のうち、浅瀬石川ダム貯水池で環境基準を達成し、達成率は33%であった。（図3）



⑤ 土地利用の状況

土地利用区別では、森林が65.6%と最も大きな割合を占め、次いで農地15.6%、水面・河川・水路3.6%、宅地3.5%、道路3.0%などとなっている。（図4）



資料：県国土整備部「青森県の土地利用」

⑥ 自然公園の状況

2020年3月31日現在、国立公園2か所、国定公園2か所、県立自然公園7か所が指定されており、面積は県土面積の11.6%を占めている。

2019年の自然公園内における観光地点(全108地点)の入込客数は780万8,079人(対前年1.4%増)となっている。(表5)

表5 自然公園の概要

種別	名称	関係市町村	面積 (ha)	観光入込客数 (千人、%)				
				観光地点数	2017	2018	2019年 (R元)	前年比
国立公園	十和田八幡平 (十和田・八甲田地域)	青森市、黒石市、十和田市、平川市	38,358	10	2,209	2,232	2,291	102.6
	三陸復興 (陸奥海岸・陸上岳地域)	八戸市、階上町	2,423	9	474	490	566	115.6
国定公園	下北半島	むつ市、大間町、東通村、佐井村	18,641	12	720	657	677	103.1
	津軽	弘前市、五所川原市、つがる市、今別町、外ヶ浜町、鯉ヶ沢町、深浦町、中泊町	25,966	38	2,083	2,107	2,056	97.6
県立自然公園	浅虫夏泊	青森市、平内町	4,964	10	1,002	1,008	980	97.2
	大鰐碓ヶ関温泉郷	平川市、大鰐町	6,730	5	108	103	105	102.5
	名久井岳	三戸町、南部町	1,076	3	126	116	117	100.6
	芦野池沼群	五所川原市、中泊町	612	—	—	—	—	—
	黒石温泉郷	黒石市、平川市	5,100	7	393	385	378	98.1
	岩木高原	弘前市	2,587	8	547	532	548	103.0
	津軽白神	鯉ヶ沢町、西目屋村	5,341	6	78	69	90	129.5
小計			26,410	39	2,255	2,213	2,217	100.2
合計			111,798	108	7,741	7,699	7,808	101.4

※表示単位未満の端数を四捨五入したことにより、一部計算が不一致。

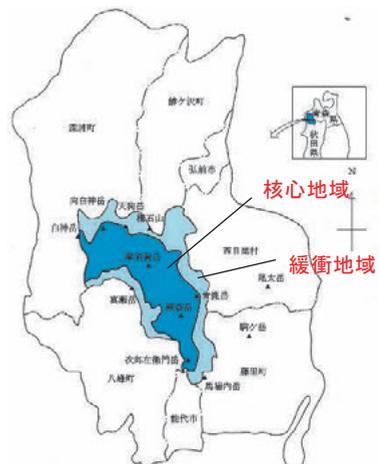
資料：県環境生活部、県観光国際戦略局「令和元年青森県観光入込客統計」

⑦ 世界自然遺産白神山地の状況

白神山地は、青森県南西部から秋田県北西部にまたがる130,000haに及ぶ広大な山地帯の総称である。このうち、原始的なブナ林で占められている区域16,971haが1993年12月に世界遺産として登録されており、青森県側の面積は、その約4分の3を占め、12,627haとなっている。

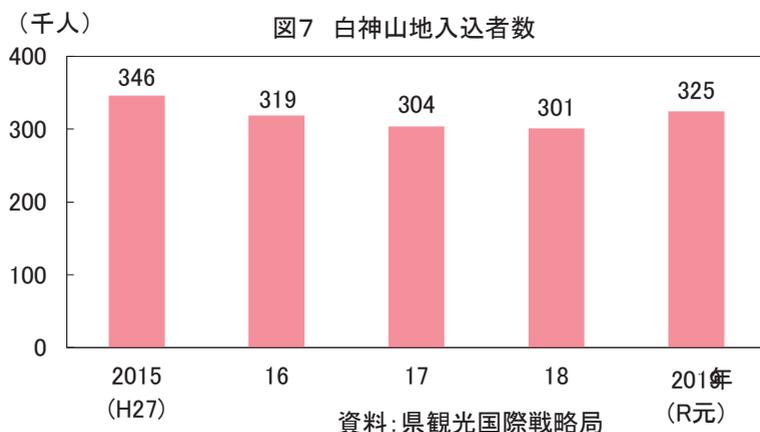
白神山地には、赤石川、追良瀬川、笹内川などの河川があり、各河川の流域を分ける尾根沿いに、白神岳(1,235m)、向白神岳(1,250m)、魔須賀岳(1,012m)、天狗岳(958m)など、標高1,000mから1,200m級の山々が連なっている。(図6)

図6 白神山地の概要図



白神山地の特徴は、人為の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が東アジア最大級の規模で分布していることにある。ブナ天然林には、ブナミズナラ群落をはじめ多種多様な植物が生育し、水源涵養機能や地表侵食防止機能が高く、多面的な機能を有している。また、高緯度にもかかわらず、ツキノワグマ、ニホンザル、イヌワシ等をはじめ多くの動物が生息し、特に世界遺産地域は、最も良く原生状態が保たれており、その価値は、地球的に見ても極めて重要であると評価されている。

世界自然遺産白神山地の持続可能な利用に向けて、遺産地域周辺における自然を生かしたエコツーリズム等が推進されており、入込者数は近年 30 万人台で推移している。(図7)



⑧ 森林の状況

ア 森林の現況

本県の森林面積(2020年)は、63万2,309haで県土面積の65.6%を占めている。そのうち、国有林(官行造林含む)は、39万3,971haで全森林の62.3%、民有林(公有林含む)は23万8,337haで37.7%を占めている。

森林蓄積量は1億2,509万2,000m³で、そのうち国有林は7,337万m³(全体の58.7%)、民有林は5,172万2,000m³(同41.3%)となっており、針広別では、針葉樹が全体の64.1%、広葉樹が35.9%となっている。針葉樹ではスギが最も多く針葉樹全体の6割以上を占め、次いでヒバ、アカマツ、カラマツの順となっている。(次頁表8)

表 8 森林の現況 2020年 (R2)

(単位 ha、千m³、m³/ha)

区 分	総 数	国 有 林	民 有 林
森 林 面 積 (ha)	632,309	393,971	238,337
森 林 蓄 積 量 (千m ³)	125,092	73,370	51,722
針 葉 樹 (〃)	80,180	39,538	40,642
ス ギ (〃)	50,292	20,183	30,109
ア カ マ ツ (〃)	9,222	2,369	6,853
ク ロ マ ツ (〃)	2,828	882	1,945
ヒ バ (〃)	13,337	13,097	239
カ ラ マ ツ (〃)	3,850	2,365	1,484
そ の 他 (〃)	652	641	11
広 葉 樹 (〃)	44,907	33,827	11,080
無立木地、除地等 (〃)	5	5	0
1 ha 当 たり 蓄 積 (m ³ /ha)	198	186	217

※国有林には官行造林を含む。

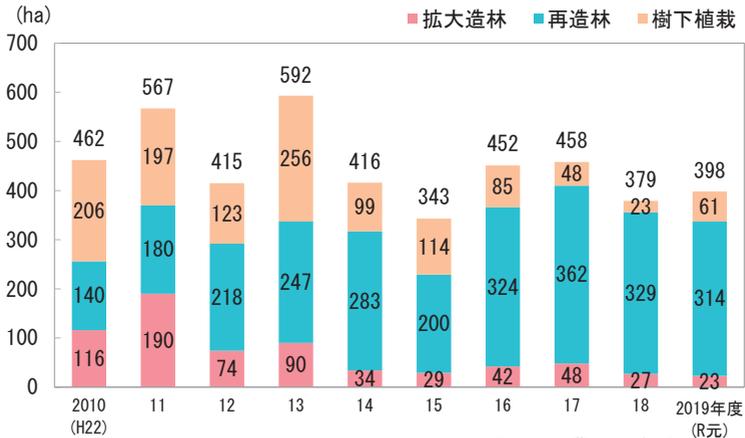
資料：県農林水産部

イ 森林の造成状況の推移

木材価格の長期低迷や、林業諸経費の増大等により、民有林造林面積は1970年の6,054haをピークに減少し、近年は300～500ha台で推移している。

民有林の再造林は増加傾向にあり、4年連続で300haを超えている。(図9)

図9 民有林造林実績の推移



資料：県農林水産部

ウ 企業の森づくりの状況

企業の社会貢献活動の一環として、森林整備（企業の森づくり）の取組が各地で進んでいる。本県においても、企業等が森林整備・保全活動に参加しやすい環

境を整備するため、企業等への情報提供や森林所有者との調整などを行っており、これまで、20の県内企業等と森林づくり協定を締結している。

さらに、2018年度には、企業等が持つ様々な技術・知識を活用し、森林・林業の魅力発信や担い手の確保・育成など、間接的に将来の安定的な森林整備につながる取組についても対象とし、これまで3企業と協定を締結している。

⑨ 有害鳥獣の状況

ツキノワグマの出没件数は増加傾向にあり、特に2016年度は過去にないほどの件数となった。ニホンジカは、全国で生息数が増加しており、本県においては、従来生息していないとされていたが、近年目撃が増加している。(表10)

このほか、ニホンザルや生息域が拡大しているアライグマ等による農作物被害が発生しており、被害拡大が懸念されている。

表10 ツキノワグマ及びニホンジカの目撃・捕獲数

獣類	年度	(頭)				
		2015	2016	2017	2018	2019年度 (R元)
ツキノワグマ	出没件数	244	498	424	395	450
	有害捕獲等数	85	154	260	152	241
ニホンジカ	目撃頭数	114	160	222	216	350
	捕獲等数※	16	28	52	49	60

※ロードキル等による死亡個体を含む

資料：県環境生活部

⑩ 狩猟免許交付状況

本県では狩猟者の減少と高齢化が続き、狩猟免許の新規取得者も年々減少していたが、狩猟免許制度の普及・啓発等により、2016年度から新規取得者が140名を超えている。(表11)

表11 狩猟免許交付状況

区分	網	わな	第1種 猟銃	第2種 猟銃	計		
					(新規)	(女性)	
2015	28	257	1,100	15	1,400	93	14
2016	44	324	1,118	18	1,504	59	35
2017	56	370	1,192	16	1,634	151	66
2018	74	418	1,122	13	1,627	145	70
2019年度 (R元)	79	448	1,125	15	1,667	168	68

資料：県環境生活部

(2) 低炭素・循環

	青森県（全国順位）	全国
1人1日当たりのごみの排出量（2018年度）	1,002g（43位）	918g
ごみのリサイクル率（ ” ）	14.5%（42位）	19.9%
1人1日当たりのごみの最終処分量（ ” ）	114g（44位）	82g

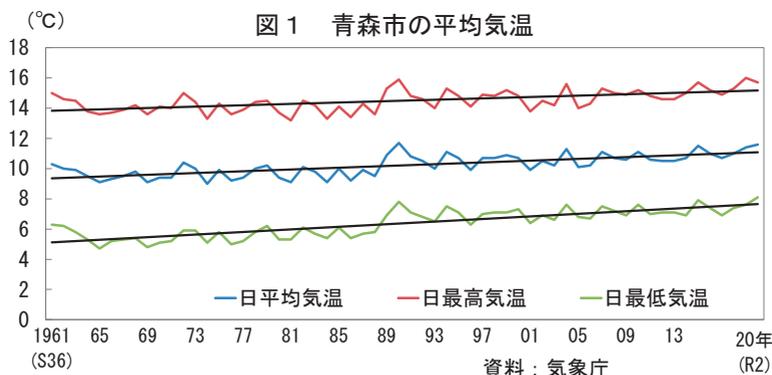
資料：県環境生活部

① 地球温暖化対策

ア 本県における影響

仙台管区気象台発行の「東北地方の気候の変化」（2016年12月発行、2020年4月更新）によれば、青森市の年平均気温は100年あたり1.9℃の割合で上昇しているほか、夏日日数は10年あたり3.2日の割合で増加、冬日日数は10年あたり3.5日の割合で減少しており、本県においても、地球温暖化による気候変動が生じている。（図1）

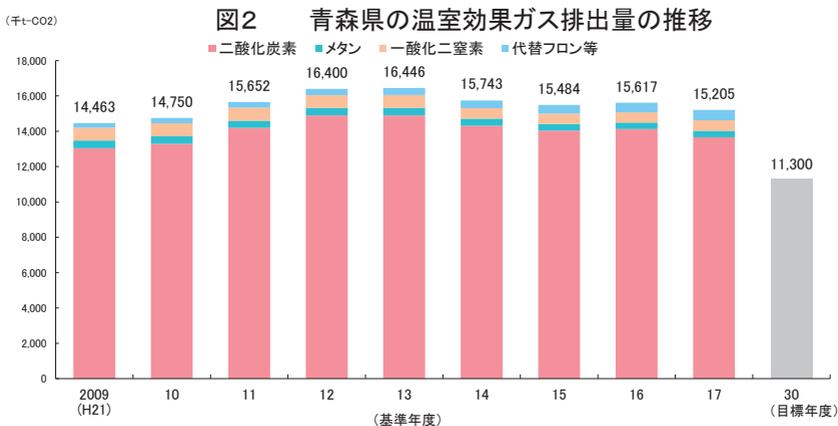
地球温暖化は、熱中症や感染症の増加など県民の健康や、リンゴ栽培適地の移動など農林水産業への影響があるほか、本県の貴重な自然資源が失われていく原因にもなる。



イ 本県の温室効果ガス排出量の現況

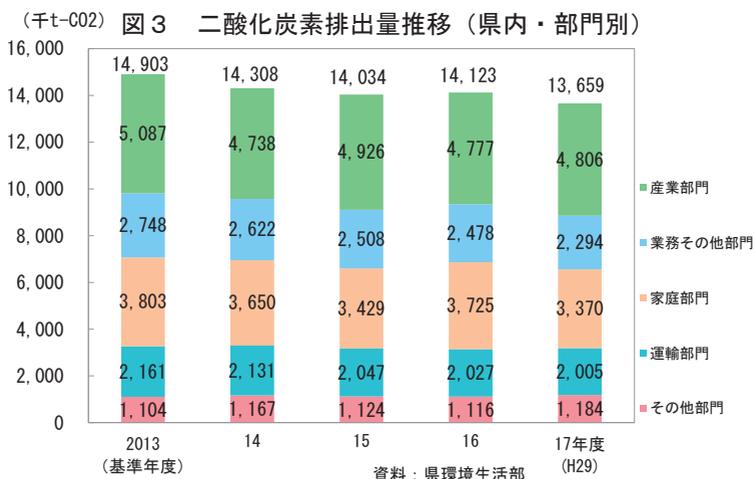
全国の傾向と同様、2010年度以降は上昇傾向で、2014年度から減少に転じていたが、2017年度は15,205千t-CO₂と前年度比2.6%の減少となった。また、青森県地球温暖化対策推進計画の基準年度である2013年度比では7.5%の減少となっている。

2030年度の目標値達成に向け、引き続き温室効果ガスの排出抑制対策を強化していく必要がある。（次頁図2）



温室効果ガス排出量のうち二酸化炭素排出量の推移を見ると 2017 年度は 13,659 千 t-CO₂ で、前年度比で 3.3% 減少、計画の基準年度である 2013 年度比で 8.3% 減少している。（図3）

前年度と比べて減少した要因としては、運輸部門では乗用車燃費の向上等の要因による排出量の減少、家庭部門では前年度ほど冷暖房にエネルギーを必要としない気候条件だったことによる排出量減少などが考えられ、これらの要因により、全体として減少となったと考えられる。

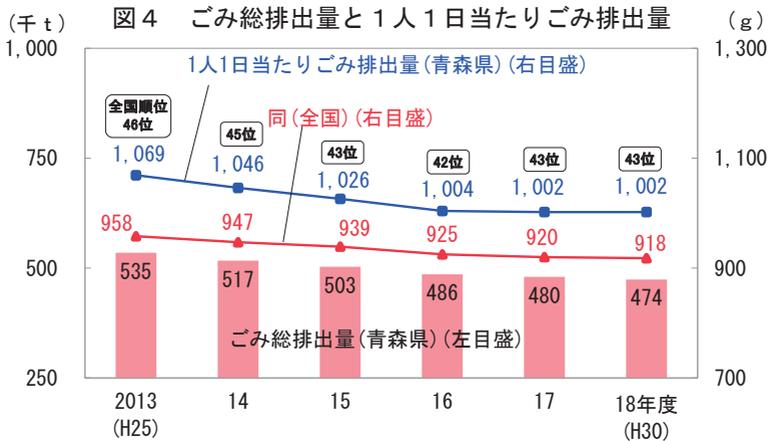


② 廃棄物・リサイクル

ア ごみ（一般廃棄物）の排出量

本県のごみ排出量は、2014年度から減少しており、2018年度実績では47万3,715tと前年度と比較して約1.2%減少している。

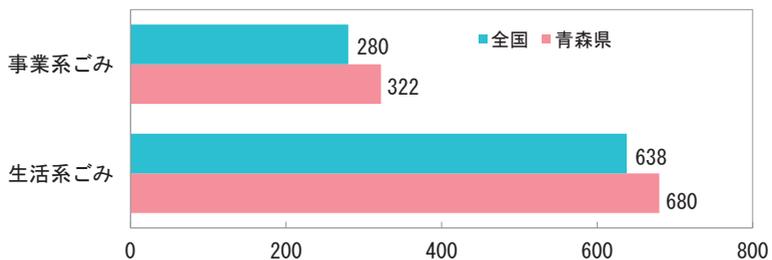
県民1人1日当たりのごみ排出量は1,002gで、全国値の918gより84g多く、依然として全国値よりも多い状況が続いている。（図4）



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」

内訳では、生活系ごみ・事業系ごみのいずれも全国値と比べて多くなっている。（図5）

図5 1人1日当たりのごみ排出量の内訳（2018年度）



資料：県環境生活部「一般廃棄物処理事業実態調査結果について」(g)を基に県企画政策部が作成

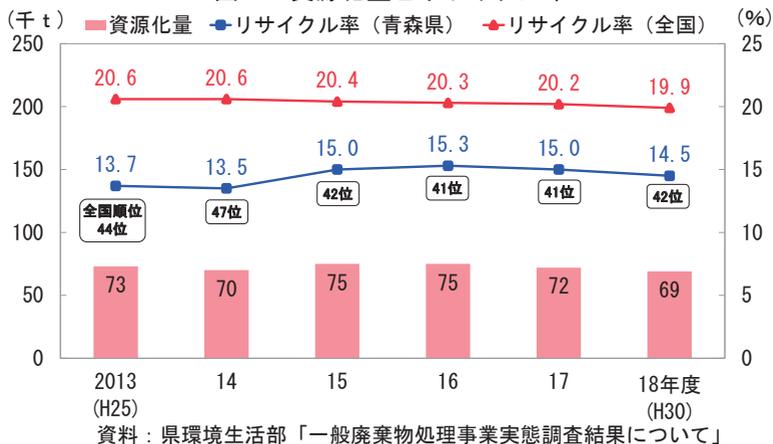
イ リサイクルの状況

2018年度の本県のごみの総資源化量は6万8,581tであり、前年度と比較して約4.9%減少している。

また、リサイクル率は14.5%で、前年度に比べ0.5ポイント低下し、全国値の19.9%と比べると5.4ポイント低く、依然として全国との差は大きい。(図6)

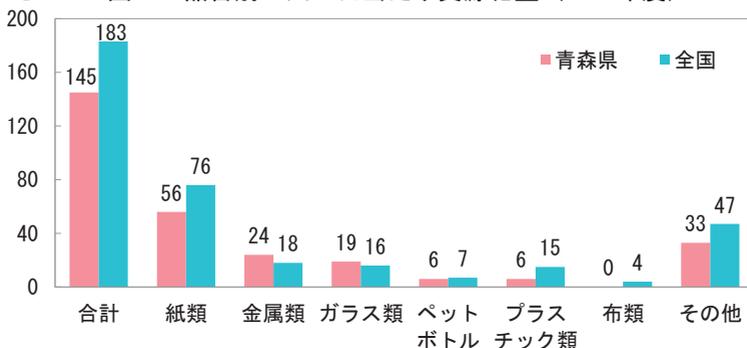
なお、上記資源化量に含まれない民間における資源回収量は増加傾向にあり、民間回収分を含めたリサイクル率は29.6%となっている。

図6 資源化量とリサイクル率



1人1日当たりの種類別の資源化量を全国と比較すると、紙類、プラスチック類について大きな開きがみられる。(図7)

図7 品目別1人1日当たり資源化量(2018年度)



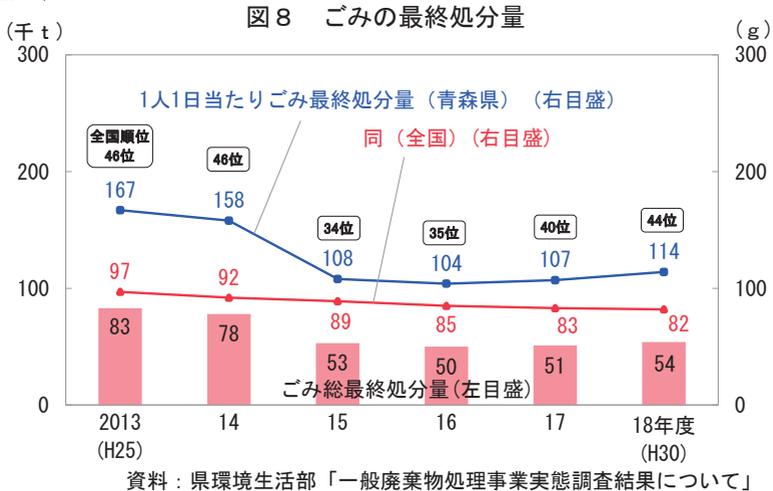
エ ごみの最終処分量の状況

不燃ごみや、ごみを焼却した後の燃え殻などは最終処分される。

2018年度における本県のごみ総最終処分量は、5万3,721tと前年度と比較して約4.5%増加している。

県民1人1日当たりのごみ最終処分量は114gで、前年度に比べ7g増加しており、全国値の82gと比べて32g多く、全国値よりも多い傾向が続いている。

(図8)



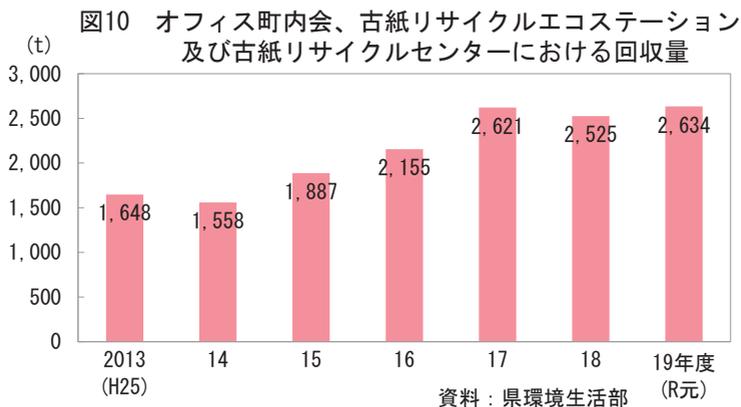
オ ごみ処理経費

2018年度における県内市町村（一部事務組合含む。）の一般廃棄物処理事業経費のうち、ごみ処理事業経費は16,713,745千円、処理対象人口1人当たりでは、ごみ処理経費が約12,900円/年となっている。（図9）



カ 民間事業者等における取組

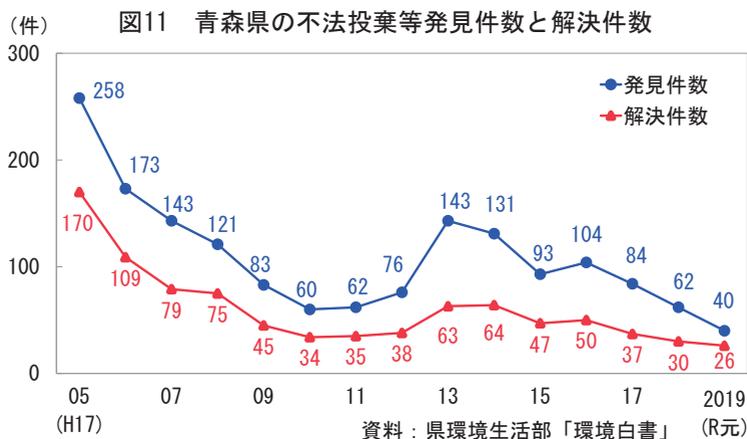
行政による集団回収のほか、レジ袋の無料配布取りやめ、オフィス町内会の設立、古紙リサイクルエコステーションや古紙リサイクルセンターの設置など、民間事業者等によるごみ削減やリサイクルの取組が進んでいる。(図 10)



キ 産業廃棄物の不法投棄等の状況

県内の産業廃棄物の不法投棄等発見件数は近年減少しており、発見件数のうち、発見した年度内に解決された件数は約5割程度で推移している。(図 11)

なお、県境不法投棄事案については、植樹や下草刈りなどの「自然再生」、跡地の利活用による「地域の振興」、処理施設等における資料展示やウェブによる「情報発信」の3つの方向性から、跡地の環境再生に向けた施策を展開している。



4 教育・人づくり分野

(1) 教育

高等学校卒業生（全日制・定時制課程）の大学等進学率（2020年3月卒）

青森県 46.6%（男 44.7% 女 48.7%） 全国平均 55.8%

高等学校卒業生（全日制・定時制課程）の就職率（ " ）

青森県 30.1%（男 35.0% 女 24.8%） 全国平均 17.4%

就職者のうち県内就職割合 55.0% 県外就職割合 45.0%

※大学等進学率は、大学・短期大学の通信教育部への進学者を含む。

資料：文部科学省「学校基本調査」

① 学校数・在学者数・教員数の推移

少子化に伴い、県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の園児・児童・生徒数は年々減少している。なお、2015年4月の制度改正により新設された「幼保連携型認定こども園」については、既存の幼稚園や保育所からの移行が進み、年々増加している。（表1）

表1 学校数・在学者数・教員数

区 分		(単位：校、人)					2020年度 (R2)
		2015 (H27)	16	17	18	19	
幼稚園	園 数	107	100	94	88	88	87
	園児数	6,533	6,013	5,734	5,078	4,877	4,632
	教員数	655	686	678	619	637	636
幼保連携型 認定こども園	園 数	121	158	182	209	233	239
	園児数	10,270	13,438	15,274	17,338	18,828	18,875
	教員数	1,970	2,558	2,945	3,353	3,748	3,843
小学校	学校数	302	293	289	287	282	269
	児童数	62,719	60,644	59,233	58,394	56,886	55,717
	教員数	4,854	4,770	4,753	4,749	4,677	4,536
中学校	学校数	166	165	161	162	160	159
	生徒数	36,719	35,505	33,921	32,137	31,052	30,206
	教員数	3,262	3,250	3,148	3,068	3,030	3,001
高等学校	学校数	80	80	78	77	76	77
	生徒数	37,967	37,109	36,327	35,350	34,117	32,658
	教員数	3,140	3,121	3,107	3,082	3,039	2,999

※ 高等学校では全日制、定時制、通信制について記載。併置している学校は1校として計上している。

※ 高等学校の生徒数は専攻科を除いている。

※ 表中の教員数は本務者のみ計上している。

資料：文部科学省「学校基本調査」

② 県立高等学校の規模等（学科、定員）

表2 2021年度県立高校全日制・定時制・通信制・八戸水産専攻科 募集人員

学校名	学科	募集人員(人)	学校名	学科	募集人員(人)	学校名	学科	募集人員(人)
青森	普通	240	柏木農業	生物生産	35	田名部	普通	200
青森西	普通	240		環境工学	35	大湊	総合	160
青森東	普通	240		食品科学	35	大間	普通	70
青森北	普通	160		生活科学	35	むつ工業	機械	35
	スポーツ科学	40	弘前工業	機械	35		電気	35
青森南	普通	160		電気	35		設備・エネルギー	35
	外国語	40		電子	35	八戸	普通	240
青森中央	総合	200		情報技術	35	八戸東	普通	200
浪岡	普通	70		土木	35		表現	30
青森工業	機械	35		建築	35	八戸北	普通	240
	電気	35	弘前実業	商業	80	八戸西	普通	200
	電子	35		情報処理	40		スポーツ科学	40
	情報技術	35		家庭科学	40	三戸	普通	40
	建築	35		服飾デザイン	40	名久井農業	生物生産	35
	都市環境	35		スポーツ科学	40		環境システム	35
青森商業	商業	160	三本木	普通	240	八戸水産	海洋生産	35
	情報処理	40	三沢	普通	240		水産食品	35
五所川原	普通	160	野辺地	普通	80		水産工学	35
	理数	40	七戸	総合	120	八戸工業	機械	35
木造	総合	160	百石	普通	80		電気	35
鱒ヶ沢	普通	40		食物調理	40		電子	35
五所川原農林	生物生産	35	六ヶ所	普通	70		土木	35
	森林科学	35	三本木農業恵拓	普通	70		建築	35
	環境土木	35		植物科学	35		材料技術	35
	食品科学	35		動物科学	35	八戸商業	商業	80
五所川原工科	普通	70		環境工学	35		情報処理	40
	機械	35	十和田工業	食品科学	35	県立全日制計		7,395
	電子機械	35		機械・エネルギー	35	北斗	普通(午前)	40
	電気	35		電気	35		普通(午後)	40
弘前	普通	240		電子	35		普通(夜間)	40
弘前中央	普通	240		建築	35	五所川原	普通(夜間)	40
弘前南	普通	240	三沢商業	商業	80	尾上総合	総合(I部)	40
	普通	120		情報処理	40		総合(II部)	40
黒石	情報デザイン	40					総合(III部)	40
	看護	40				三沢	普通(夜間)	40
						田名部	普通(夜間)	40
						八戸中央	普通(午前)	40
							普通(午後)	40
							普通(夜間)	40
						県立定時制計		480
						北斗	普通	200
						尾上総合	普通	150
						八戸中央	普通	150
						県立通信制計		500
						八戸水産	漁業	10
							機関	10
						八戸水産専攻科計		20

資料：県教育庁

③ 新学習指導要領の導入スケジュール

学習指導要領が改訂され、外国語教育の充実・強化や情報活用能力の育成に向けて、小学校における中学年の外国語活動や高学年の外国語科の導入、プログラミング教育の必修化、ICTを活用した学習活動の充実などへ対応するための取組を進めている。

文部科学省の示す今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール

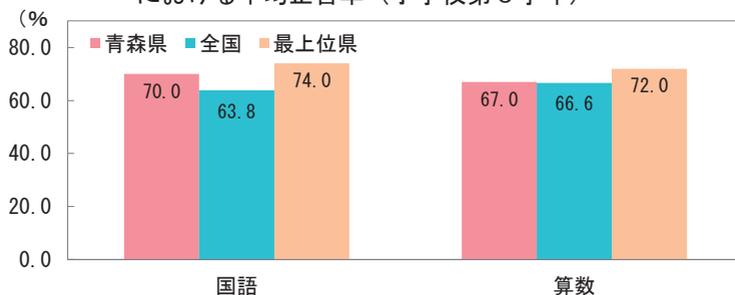
	2016	17	18	19	20	21	2022年度
幼稚園			2018年度～全面实施				
小学校	学習指導要領の改訂	周知・徹底	〔移行期間〕		2020年度～全面实施		
中学校			〔移行期間〕		2021年度～全面实施		
高等学校			〔移行期間〕		2022年度～年次進行で実施		
			学習指導要領の改訂	周知・徹底			

④ 全国学力・学習状況調査に見る本県の児童生徒の学力

2019年度における本県公立小・中学校の児童生徒の学力は、教科に関する調査（対象：小学校第6学年及び中学校第3学年）の平均正答率を比較すると、小学校は国語が全国平均正答率を上回り、算数は全国平均正答率と同程度であり、中学校は国語、数学及び英語の全てで平均正答率が全国平均と同程度となっている。（図3、次頁図4）

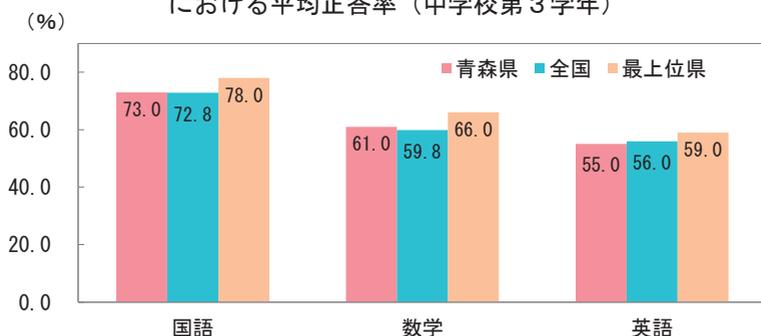
※ 2020年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、調査実施が見送られている。

図3 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における平均正答率（小学校第6学年）



資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

図4 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査
における平均正答率（中学校第3学年）



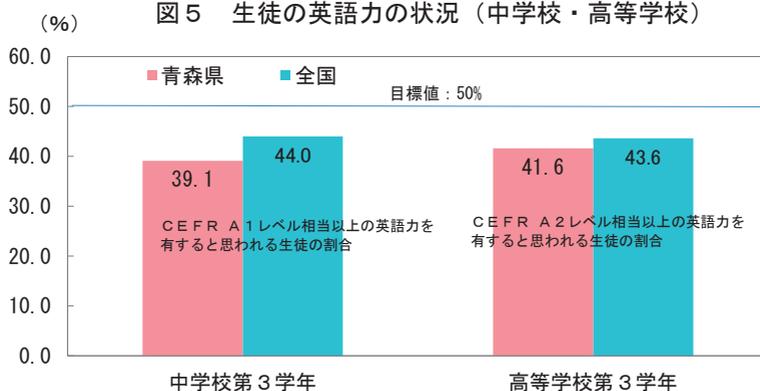
資料：国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」

⑤ 本県の生徒の英語力の状況

本県の中学校第3学年に属する生徒のうち、CEFR※ A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合と高等学校第3学年に属する生徒のうち、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合はともに全国平均より低く、国の掲げる目標値（50%）に達していない。（図5）

※ CEFR：外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1レベルは実用英語技能検定における準2級～3級相当、A2レベルは同検定における2級～準2級相当。

図5 生徒の英語力の状況（中学校・高等学校）



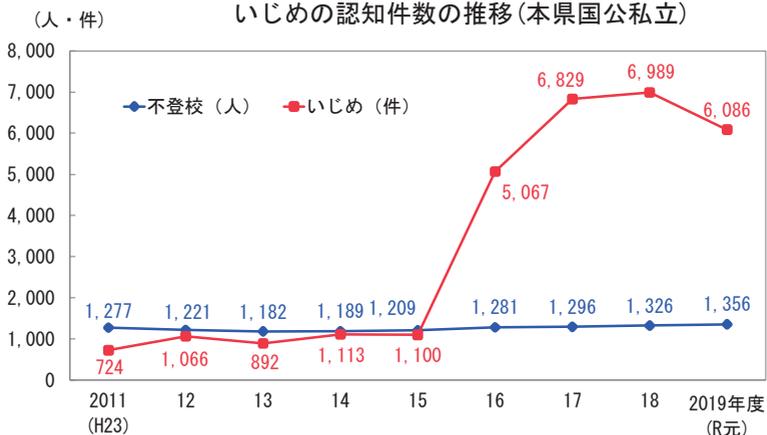
資料：文部科学省 2019（令和元）年度英語教育実施状況調査

⑥ 本県の児童生徒のいじめ・不登校の状況

本県小・中学校における不登校児童生徒数は、2013年以降、毎年微増が続いている。

また、小・中学校におけるいじめの認知件数は、いじめの早期発見や積極的な認知を働きかけてきたところ、2016年度から大幅に増えているが、2019年度減少に転じている。また、いじめの早期発見・解消に向けて、スクールカウンセラーの配置など相談体制の充実に取り組んでいる。(図6、表7)

図6 小・中学校における不登校児童生徒数、
いじめの認知件数の推移(本県国公立)



資料:文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

表7 スクールカウンセラー配置・派遣学校数及び延べ相談者数(公立小・中学校)

年度	2011 (H23)	12	13	14	15	16	17	18	2019 (R元)
スクールカウンセラー配置・派遣学校数(校)	126	126	126	144	161	186	275	360	430
スクールカウンセラー延べ相談者数(人)	11,408	10,712	12,205	15,148	17,293	21,881	24,301	24,104	20,449

資料:県教育庁

⑦ 職場体験・インターンシップ実施状況

公立中学校の職場体験実施校は2018年度において96.2%と前年度より減少した。年間5日以上実施率は5.3%と前年度より1.4%上回ったものの、全国平均を大きく下回っている。

また、公立高等学校におけるインターンシップ実施校の割合は前年度より減少し、全国平均を下回る状況が続いている。(表8)

表8 職場体験・インターンシップ実施状況

(単位：校、%)

区 分	2014 (H26)	15	16	17	2018年度 (H30)
職場体験実施校(青森県)	161	157	153	153	150
職場体験実施率(青森県)	100.0	98.1	95.6	98.1	96.2
職場体験実施率(全国)	98.4	98.3	98.1	98.6	97.7
年間5日以上実施率(青森県)	5	5.1	5.2	3.9	5.3
年間5日以上実施率(全国)	14	12.7	12.8	12.2	11.9
インターンシップ実施校(青森県)	56	54	51	52	51
インターンシップ実施率(青森県)	76.7	77.1	73.9	77.6	77.3
インターンシップ実施率(全国)	79.3	81.8	83.7	84.8	84.9

※ 職場体験は公立中学校、インターンシップは公立高等学校(全日制・定時制)の実施状況。

※ 実施率は学校数に対する実施校の割合。

資料：国立教育政策研究所「職場体験・インターンシップ実施状況等調査」

⑧ 県内企業における新規高等学校卒業者の離職率

県内企業における新規高等学校卒業者の就職後3年以内の離職率は、2012年以降減少傾向にあるが、全国平均より高い状況が続いている。(図9)

図9 県内企業における新規高等学校卒業者の
就職後3年以内の離職率



⑨ 高等学校卒業者の大学等進学率・就職率

本県においては、近年は大学等進学率が45%程度、就職率は30%程度で推移している。

本県では経済的な要因等もあり、高等学校卒業後に就職を希望する生徒の割合が高いが、一方で景気動向などの経済情勢の変化や、企業の雇用環境の動向などにより、大学等進学率・就職率に変動が見られる。(図10、図11)

図10 高等学校卒業者の大学等進学率

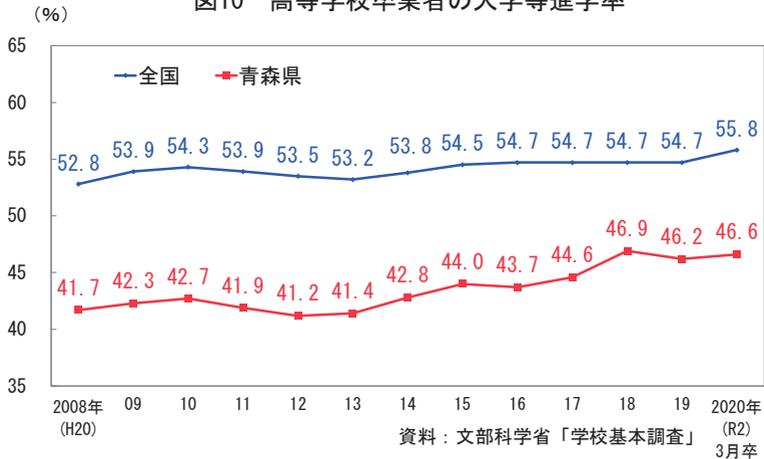
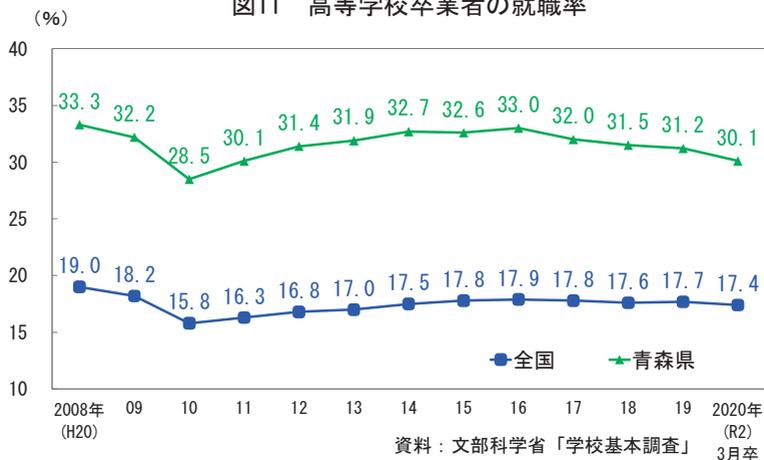


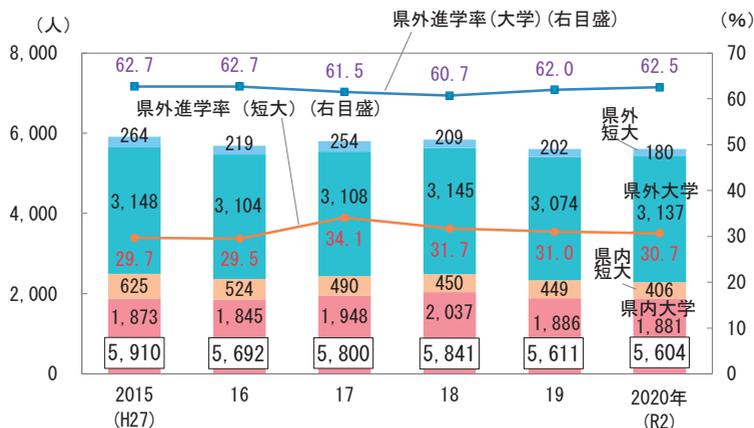
図11 高等学校卒業者の就職率



⑩ 県内高校出身者の大学・短期大学への入学状況

県内の高等学校を卒業し、2020年4月に大学・短期大学へ入学した者は、5,604人であり、前年から7人減少した。大学入学者の県外進学率は、近年60%程度となっている。(図12)

図12 県内高校出身者の大学・短大への入学状況



資料：文部科学省「学校基本調査」 4月入学

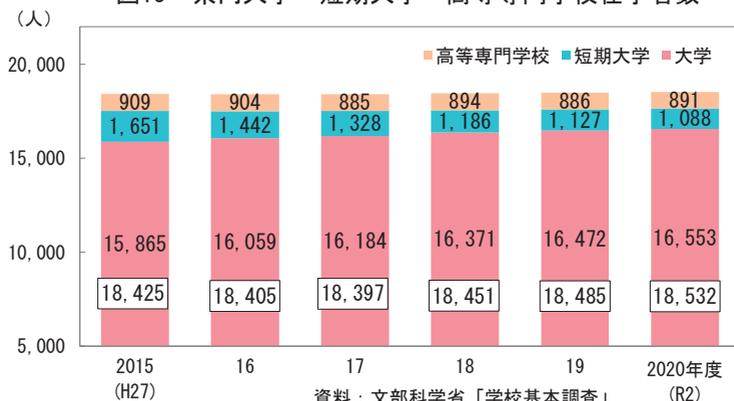
⑪ 高等教育機関在学者数の推移

2020年度の県内の大学等の高等教育機関数は、大学が10校（県外に本部を置く北里大学を除く）、短期大学が5校、高等専門学校が1校の計16校、在学者数は1万8,532人となっている。

県内の高等教育機関在学者数は、おおむね1万8,000人台で推移している。

(図13、次頁表14)

図13 県内大学・短期大学・高等専門学校在学者数



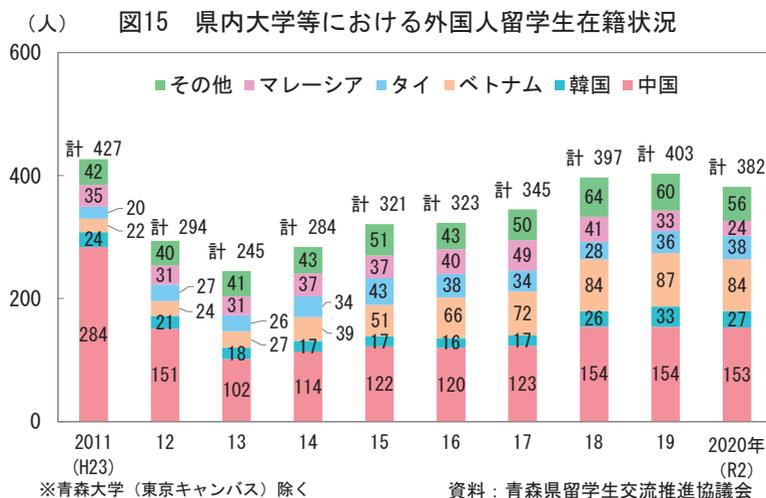
資料：文部科学省「学校基本調査」

表14 青森県内の大学・短期大学等(2021年4月現在)

区分	名 称	学 部	学 科	
大 公 立 学	弘前大学 (大学院)	人文社会科学部 教育学部 医学部 理工学部 農学生命科学部	文化創生課程、社会経営課程 学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程 医学科、保健学科、心理支援科学科 数物科学科、物質創成化学科、地球環境防災学科、 電子情報工学科、機械科学科、自然エネルギー学科 生物学科、分子生命科学科、食料資源学科、 国際園芸農学科、地域環境工学科	
		人文社会科学研究科(修士課程) 教育学研究科(専門職学位課程) 医学研究科(博士課程) 保健学研究科(博士前期/後期課程) 理工学研究科(博士前期課程) 理工学研究科(博士後期課程) 農学生命科学研究科(修士課程) 地域社会研究科(博士後期課程) 地域共創科学研究科(修士課程) 岩手大学大学院連合農学研究科(博士課程)	人文社会科学専攻 学校教育専攻、教職実践専攻 医学専攻 保健学専攻 理工学専攻 機能創成科学専攻、安全システム工学専攻 農学生命科学専攻 地域社会専攻 地域リノベーション専攻、産業創成科学専攻 生物生産科学専攻、生物資源科学専攻、 地域環境創生学専攻	
		青森県立保健大学 (大学院)	健康科学部 健康科学研究科(博士前期/後期課程)	看護学科、理学療法学科、社会福祉学科、栄養学科 健康科学専攻
		青森公立大学 (大学院)	経営経済学部 経営経済学研究科(博士前期(修士)/後期課程)	経営学科、経済学科、地域みらい学科 経営経済学専攻
		北里大学 (大学院)	獣医学部 獣医学系研究科(修士課程) 獣医学系研究科(博士課程)	獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科 動物資源科学専攻、生物環境科学専攻 獣医学専攻、動物資源科学専攻
		青森大学	総合経営学部 社会学部 ソフトウェア情報学部 薬学部	経営学科 社会学科 ソフトウェア情報学科 薬学科
		青森中央学院大学 (大学院)	経営法学部 看護学部 地域マネジメント研究科(修士課程)	経営法学科 看護学科 地域マネジメント専攻
		柴田学園大学	生活創生学部	健康栄養学科、こども発達学科
		弘前学院大学 (大学院)	文学部 社会福祉学部 看護学部 文学研究科(修士課程) 社会福祉学研究科(修士課程)	英語・英米文学科、日本語・日本文学科 社会福祉学科 看護学科 日本文学専攻 人間福祉専攻
		弘前医療福祉大学	保健学部	看護学科 医療技術学科(作業療法学専攻、言語聴覚学専攻)
私 立 学	八戸工業大学 (大学院)	工学部 感性デザイン学部 工学研究科(博士前期/後期課程)	機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科 生命環境科学科、土木建築工学科 創生デザイン学科 機械・生物化学工学専攻 電子電気・情報工学専攻 社会基盤工学専攻	
		八戸学院大学	ビジネス学部 地域経営学部 健康医療学部	ビジネス学科 地域経営学科 人間健康学科、看護学科
		青森明の星短期大学 青森中央短期大学 柴田学園大学短期大学部 弘前医療福祉大学短期大学部 八戸学院短期大学部	子ども福祉未来学科 食物栄養学科、幼児保育学科、専攻科福祉専攻 生活科、保育科 救急救命学科、介護福祉学科 幼児保育学科、介護福祉学科	
独立行政法人国立高等専門学校機構八戸工業高等専門学校		産業システム工学科(本科) 産業システム工学専攻(専攻科)		

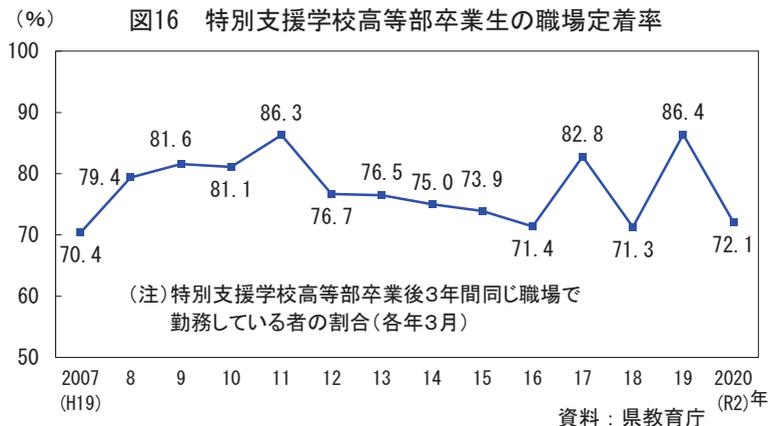
⑫ 留学生の在学状況

県内の大学、短期大学、高等専門学校に在籍する外国人留学生は2020年5月1日現在で382人となっており、うち中国からの留学生が全体の40.1%を占めている。教育機関のPR強化等により、2013年以降増加傾向にあり、東日本大震災前の水準に回復していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う入国制限が影響し、2020年は減少に転じている。(図15)



⑬ 特別支援学校高等部卒業生の職場定着率

特別支援学校高等部卒業生の職場定着率は、70%以上を維持している。(図16)

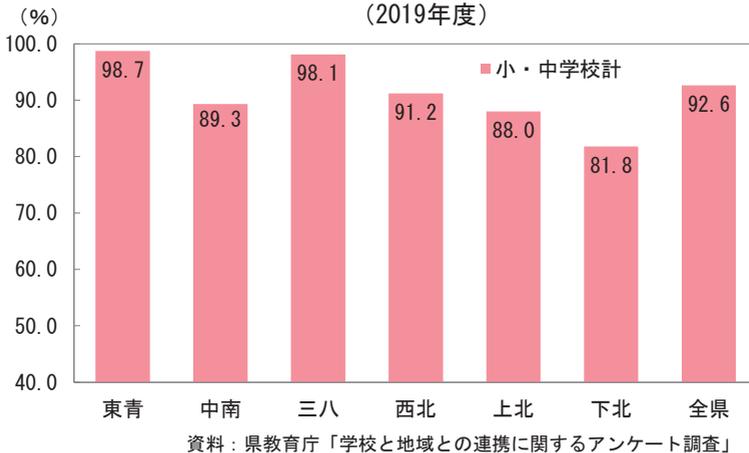


⑭ 学校支援ボランティアの受入状況

県内の公立小・中学校で、学校の教育活動を支援するためのボランティア（学校支援ボランティア）を受け入れている割合は、2019年度において92.6%であり、地域ぐるみで学校を支援する活動が広がっている。（図17）

学校支援ボランティア活動の分野別の受入割合は、多い順に「環境サポーター」（87.6%）、「ゲストティーチャー」（81.1%）、「学校行事の補助」（75.6%）、「学習アシスタント」（56.2%）、「施設メンテナー」（14.2%）となっている。

図17 県内小・中学校のボランティア受入状況
(2019年度)



⑮ 図書館の利用状況

2020年4月1日現在、県内には35の図書館がある。図書を借用して館外に持ち出した者（帯出者）の延べ人数は、2007年度と比較して2017年度は14.4%減少しているが、貸出冊数は1.4%増加している。（表18）

表18 図書館の利用状況

区分	2007 (H19)	2010	2014	2017年度 (H30)
登録者数(人)	190,338	180,394	140,097	131,531
うち児童	16,470	22,861	16,871	15,939
帯出者数(人)	1,142,932	1,158,017	1,031,890	978,462
うち児童	161,252	144,897	154,779	135,843
貸出冊数(冊)	3,550,526	3,633,237	3,573,857	3,599,813
うち児童書	633,814	650,672	739,471	908,526

※ 登録者数、帯出者数等で児童数内訳を把握できない図書館あり。

資料：文部科学省「社会教育調査」

(2) 人づくり、移住・交流

移住相談・情報提供件数（2019年度）	12,620件	
在留外国人数	青森県	全国
（2019年末）	6,386人（男2,506,女3,880）	293万3,137人
うち中国	1,335人（男501,女834）	81万3,675人
韓国	781人（男363,女418）	44万6,364人
ベトナム	1,896人（男624,女1,272）	41万1,968人

資料：県企画政策部、法務省「在留外国人統計」

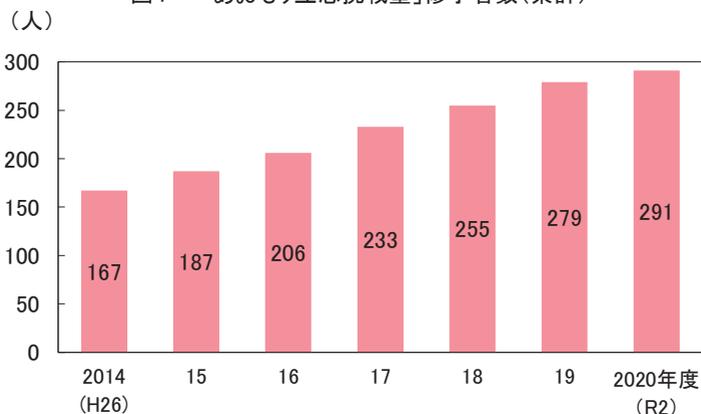
① あおもり立志挑戦塾の修了者数

「あおもり立志挑戦塾」（寺島実郎塾長）は、本県の経済や地域づくりをけん引していく気概とチャレンジ精神、自由で柔軟な発想力、そして広い視野を持って、何事にも果敢に挑戦していく人材の育成とネットワークづくりを目的に、20～30代の県内社会人を対象に開催される人材育成の取組である。

塾では、塾長や多彩な講師による講話や、同世代の仲間とのグループディスカッション等を通じて、自らが生涯を通じて達成を目指す「人生の志」を立てるなど、自らの人生観や新たな世界観を広げ、成長する場を提供している。

2008年からこれまでに291名（1期～13期生）が塾を修了しており、県内各地域・各分野でリーダーとして活躍しているほか、「あおもり立志挑戦の会（ARC）」を設立し、地域貢献活動を行っている。（図1）

図1 「あおもり立志挑戦塾」修了者数(累計)



資料：県企画政策部

② 移住・相談窓口の設置状況

本県の首都圏における情報発信と移住相談窓口として「青森暮らしサポートセンター」を東京都内に設置し、専属の移住相談員による常時の相談体制を整えるとともに、首都圏等においてセミナーを開催するなど、移住・交流の促進に取り組んでいる。

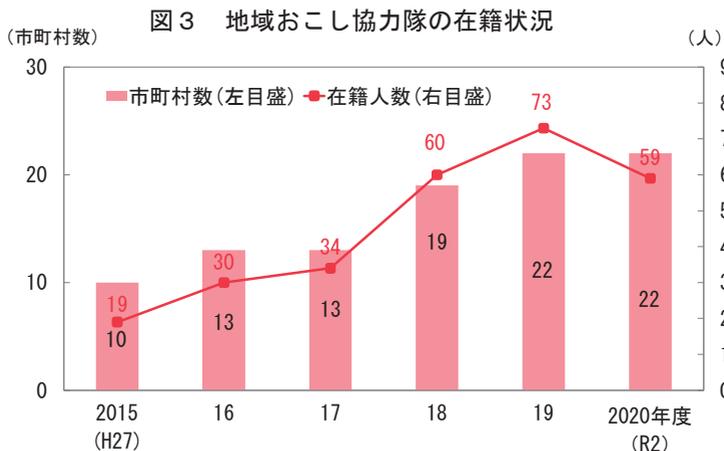
また、県内40市町村全てにおいて、専門の担当窓口を設置しているほか、弘前市、八戸市、つがる市では、首都圏における相談窓口を設置している。(表2)

表2 移住・相談窓口の設置状況

	名称	所在地
青森県 (40市町村)	青森暮らしサポートセンター	東京交通会館 8階 (ふるさと回帰支援センター内)
弘前市	ひろさき移住サポートセンター東京事務所	東京交通会館 6階
八戸市	八戸圏域連携中枢都市圏 観光・UJターン窓口	全国都市会館 5階 (八戸市東京事務所内)
つがる市	つがる市東京事務所	東京都新宿区

③ 地域おこし協力隊の在籍状況

地域おこし協力隊は2021年3月末時点で、22市町村で59名の隊員が地域活動に従事している。(図3)



資料：県企画政策部

※ 在籍状況は、各年度3月末時点の在籍状況。

※ 地域おこし協力隊：都市地域から過疎地域等へ生活の拠点を移し、おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受けて地域で生活し、農林漁業の応援、住民の生活支援などの各種の地域活動に従事する者をいう。

④ 外国人登録者数

県内外国人登録者数は、近年増加傾向にあり、2019年は12月末時点で6,386人となった。

国籍別の内訳は、アジア地域が全体の88.9%を占め、ベトナム、中国、韓国・朝鮮の割合が大きくなっている。近年、ベトナムの伸びが大きく、2019年の内訳では、1位となっている。(表4)

表4 県内主要国籍別外国人登録者数

(単位：人)

地域・国	2014年 (H26)	15年	16年	17年	18年	2019年 (R元)
アジア	3,417	3,614	3,922	4,472	5,069	5,676
中国	1,259	1,236	1,106	1,217	1,285	1,335
韓国・朝鮮	888	862	844	838	845	855
フィリピン	535	535	551	589	656	736
ベトナム	247	414	771	1,093	1,502	1,896
その他	488	567	650	735	781	854
ヨーロッパ	138	135	131	123	141	147
北アメリカ	396	408	425	434	448	438
南アメリカ	36	36	38	37	63	65
オセアニア	32	30	30	35	46	43
アフリカ	21	21	21	19	18	17
無国籍	1	1	1	1	1	0
計	4,041	4,245	4,568	5,121	5,786	6,386

資料：法務省「在留外国人統計」

在留資格別に内訳を見ると、永住・定住を除き技能実習の割合が最も多く、2014年から2019年の5年間で3倍以上の伸びとなっている。次いで、割合は大きく下がり、留学、技能・人文知識・国際業務が続いている。(次頁表5)

表5 県内在留資格別外国人登録者数

(単位：人)

在留資格	2014年 (H26)	15年	16年	17年	18年	2019年 (R元)	構成比 (%)	対前年 伸び率 (%)
留学	313	338	352	384	414	438	6.9	5.8
技能実習	864	995	1,271	1,650	2,099	2,552	40.0	21.6
高度専門職(※2015年新設)		3	3	6	12	10	0.2	△ 16.7
技能	77	84	81	67	55	49	0.8	△ 10.9
技術・人文知識・国際業務	104	121	151	188	247	337	5.3	36.4
教育	129	138	143	144	159	164	2.6	3.1
教授	17	15	15	14	17	18	0.3	5.9
永住・定住	2,276	2,265	2,232	2,242	2,268	2,295	35.9	1.2
その他	261	286	320	426	515	523	8.2	1.6
計	4,041	4,245	4,568	5,121	5,786	6,386	100.0	10.4

資料：法務省「在留外国人統計」

※在留資格者の該当例

留学：大学、短期大学、高等専門学校、高等学校中学校及び小学校等の学生・生徒

技能実習：技能実習生

高度専門職：ポイント制による高度人材

技能：外国料理の調理師、スポーツ指導者、航空機の操縦者、貴金属等の加工職人等

技術・人文知識・国際業務：機械工学等の技術者、通訳、デザイナー、私企業の語学教師、マーケティング業務従事者等

教育：中学校・高等学校等の語学教師等

教授：大学教授等

永住・定住：法務大臣から永住の許可を受けた者、日本人の配偶者・子・特別養子、

永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子、第三国定住難民、日経3世、中国在留邦人等

⑤ 本県の友好提携

本県の国際交流に係る協定等は、1980年にサンタ・カタリーナ州（ブラジル連邦共和国）、1992年にハバロフスク地方（ロシア連邦）、1994年にメイン州（アメリカ合衆国）、2002年にリグーリア州（イタリア共和国）、2004年に大連市（中華人民共和国）、2016年に済州特別自治道（大韓民国）及び台中市（台湾）、2017年に台南市（台湾）と締結している。

市町村では20市町村が友好提携（2020年12月現在）を結び、教育、文化、芸術など様々な分野で地域の特色を生かした交流を行っている。（次頁表6）

表6 県内自治体の姉妹・友好提携一覧

団体名	国名・地域	姉妹・友好提携先	提携年月日		
青森県	ブラジル連邦共和国	サンタ・カタリーナ州	1980. 10. 23		
	ロシア連邦	ハバロフスク地方	1992. 8. 27		
	アメリカ合衆国	メーン州	1994. 5. 25		
	イタリア共和国	リグーリア州	2002. 5. 7		
	中華人民共和国	遼寧省大連（ダイレン）市	2004. 12. 24		
	大韓民国	済州（チェジュ）特別自治道	2016. 8. 8		
	台湾	台中市 ※平川市を含む三者による協定	2016. 12. 14		
	台湾	台南市 ※弘前市を含む三者による覚書	2017. 12. 4		
	市	青森市	ハンガリー共和国	パーチ・キシュクン県ケケケメート市	1994. 8. 4
大韓民国			京畿道平澤（ピョンテク）市	1995. 8. 28	
中華人民共和国			遼寧省大連市	2004. 12. 24	
台湾			新竹県	2014. 10. 17	
弘前市		台湾	台南市 ※県を含む三者による覚書	2017. 12. 4	
八戸市		アメリカ合衆国	ワシントン州フェデラルウェイ市	1993. 8. 1	
		中華人民共和国	甘肅省蘭州（ランシュウ）市	1998. 4. 14	
黒石市		アメリカ合衆国	ワシントン州ウエナッチ市	1971. 10. 5	
		大韓民国	慶尚北道永川（ヨンチョン）市	1984. 8. 17	
三沢市		アメリカ合衆国	ワシントン州ウエナッチ市	1981. 10. 4	
		アメリカ合衆国	ワシントン州東ウエナッチ市	2001. 8. 23	
むつ市		アメリカ合衆国	ワシントン州ポートエンジェルズ市	1995. 8. 14	
つがる市		アメリカ合衆国	メーン州バス市	2006. 7. 6	
平川市		台湾	台中市 ※県を含む三者による協定	2016. 12. 14	
町		鱒ヶ沢町	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州サン・セバスチオン市	1984. 10. 26
		深浦町	フィンランド共和国	ラップランド州ラヌア郡	1990. 6. 26
		西目屋村	中華人民共和国	吉林省梨樹県葉赫滿族鎮（ヨウカクマンゾクチン）	1985. 4. 29
		大鱧町	アメリカ合衆国	ミシガン州ノーバイ市	1991. 12. 20
		板柳町	アメリカ合衆国	ワシントン州ヤキマ市	1972. 2. 3
			中華人民共和国	北京市昌平（シヨウヘイ）区	1993. 6. 23
	鶴田町	アメリカ合衆国	オレゴン州フッドリバー市	1977. 7. 27	
	七戸町	大韓民国	慶尚南道河東（ハドン）郡	1994. 11. 16	
	六ヶ所村	ドイツ連邦共和国	メクレンブルク・フォアポンメルン州ヴァーレン市	1994. 4. 22	
	大間町	台湾	雲林県虎尾鎮（コピチン）	1979. 10. 10	
三戸町	オーストラリア連邦	ニューサウスウェールズ州タムワース市	2001. 7. 5		
五戸町	フィリピン共和国	ヌエバ・ビスカヤ州バヨンボン町	1983. 12. 22		
	大韓民国	忠清北道沃川（オクチョン）郡	1997. 8. 28		
田子町	アメリカ合衆国	カリフォルニア州ギルロイ市	1988. 4. 18		
	イタリア共和国	ピアツェンツァ郡モンティチェリ・ドンジーナ町	1992. 9. 11		
	大韓民国	忠清南道瑞山（ソサン）市	2012. 6. 22		

資料：県観光国際戦略局

(3) 文化・スポーツ

県立郷土館利用者数（2019年度）	約 6万2千人
県立美術館入館者数（ ” ）	約 13万4千人
県内の公共スポーツ施設（2018年度）	798施設
第74回国民体育大会（2019年）	天皇杯 45位（前回 42位）

資料：文部科学省「2018（平成30）年度体育・スポーツ施設現況調査」、県教育庁、県観光国際戦略局

① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産

2021年の世界文化遺産登録をめざしている「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17の構成資産のうち8つが県内に所在している。



青森県：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大森勝山遺跡、是川石器時代遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、大平山元遺跡、二ツ森貝塚

北海道：大船遺跡、垣ノ島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江・高砂貝塚（入江貝塚）、入江・高砂貝塚（高砂貝塚）

岩手県：御所野遺跡

秋田県：大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡

② ユネスコ無形文化遺産

重要無形民俗文化財「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33件の祭りで構成される「山・鉾・屋台行事」が、2016年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されている。

③ 日本遺産

県無形民俗文化財である「鱒ヶ沢白八幡宮の大祭行事」や、県重宝である深浦町の円覚寺宝篋印塔、野辺地町の町指定史跡「浜町の常夜燈」などの文化財を含む「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」が、日本遺産に認定されている。（日本海及び瀬戸内海沿岸自治体により構成）

④ 文化財

表 1 国・県指定文化財一覧（2021年2月1日現在）

【国指定】		【県指定】		【国選定等】	
国宝		県重宝		選定	
工芸品	2	建造物	44	重要伝統的建造物群保存地区	2
考古資料	1	絵画	7	選定保存技術	1
重要文化財		彫刻	31	登録	
建造物	32	工芸品	30	登録有形文化財（建造物）	103
彫刻	2	書跡	2	登録有形民俗文化財	1
工芸品	7	考古資料	29	登録記念物	4
考古資料	13	歴史資料	12	記録選択	
重要無形文化財		無形文化財		記録作成等の措置を講ずべき 無形文化財	1
工芸技術	1	県技芸	2	記録作成等の措置を講ずべき 無形の民俗文化財	15
民俗文化財		民俗文化財		重要美術品	
重要有形民俗文化財	8	県有形民俗文化財	12	書跡	4
重要無形民俗文化財	8	県無形民俗文化財	55	考古資料	1
記念物		記念物		合計	132
特別史跡	1	県史跡	20		
史跡	21	県名勝	2		
特別名勝及び天然記念物	1	県天然記念物	40		
名勝及び天然記念物	1	合計	286		
名勝	8				
特別天然記念物	2				
天然記念物	16				
合計	124				

資料：県教育庁

【国指定の主な文化財】

国宝〔工芸品〕

あかいとおどしよろい かぶと おおそでつき
赤糸威 鎧兜、大袖付、
しろいとおどしつまどりよろいかぶと おおそでつき
白糸威 袷取鎧兜、大袖付（いずれも八戸市）

国宝〔考古資料〕

合掌土偶（八戸市風張 1 遺跡出土）

重要文化財〔建造物〕

弘前城、最勝院五重塔（いずれも弘前市）、櫛引八幡宮本殿（八戸市）

重要無形文化財〔工芸技術〕

津軽塗

重要無形民俗文化財

青森のねぶた、八戸のえんぶり、下北の能舞

記念物〔特別史跡〕

三内丸山遺跡（青森市）

記念物〔特別名勝及び天然記念物〕

十和田湖および奥入瀬溪流（十和田市）

⑤ 伝統工芸

県内には、津軽塗や南部裂織を始め、地域に生まれ、生活の中で育まれてきた優れた伝統工芸品が数多く存在する。これらの多くは、後継者や販路の確保といった課題を抱えていることから、県では、伝統工芸品の価値の再評価とその作り手の意識の向上を図るため、一定の要件を満たすものを「青森県伝統工芸品」に指定している。（表 2）

表 2 青森県伝統工芸品一覧表

工芸品名	市町村名	工芸品名	市町村名
津軽塗	弘前市	津軽凧	弘前市
津軽焼	弘前市	津軽びいどろ	青森市
八戸焼	八戸市	錦石	青森市、弘前市、外ヶ浜町
下川原焼土人形	弘前市	南部姫毬	南部町
あけび蔓細工	弘前市	えんぶり烏帽子	八戸市
津軽竹籠	弘前市	きみがらスリッパ	十和田市
ひば曲物	藤崎町	目屋人形	西目屋村
こぎん刺し	青森市、弘前市	津軽打刃物	弘前市
南部裂織	八戸市、十和田市、むつ市 七戸町、佐井村、五戸町	津軽桐下駄	弘前市
南部菱刺し	八戸市、七戸町、五戸町	南部総桐箆筒	三戸町、八戸市
温湯こけし	黒石市	太鼓	弘前市
大鱧こけし・ずぐり	大鱧町	ねぶたハネト人形	青森市
弘前こけし・木地玩具	弘前市	津軽裂織	青森市、平内町、つがる市
八幡馬	八戸市	津軽組ひも	五所川原市
善知鳥彫ダルマ	青森市	五戸ばおり	五戸町
		ブナコ	弘前市
		南部花形組子	八戸市

資料：県商工労働部

⑥ 祭り

本県には、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭」、歴史と文化に彩られた津軽の夏の風物詩「弘前ねぶたまつり」、様々な趣向を凝らした山車の迫力や華麗さが魅力の「八戸三社大祭」、奥津軽の夏の夜空を焦がす勇壮絢爛な「五所川原立佞武多」、京都祇園祭の流れを汲む豪華絢爛な「田名部まつり」などの夏祭りや、三八地域に春を呼ぶ豊作祈願の祭りである「えんぶり」を始め、県内各地に四季折々の伝統的な祭りが数多くある。

これらの祭りは、観光資源としてはもとより、少子化・高齢化が進む中において、地域の絆を強め、コミュニティ機能を維持していく上でも重要な役割を担っており、地域に根ざした県民共通の財産として、未来へ伝えていく必要がある。

⑦ 本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手

本県の豊かな自然や風土に育まれて、多くの県人が文学やアート、芸能、スポーツなど様々な分野で多彩な活躍をしている。(表3：敬称略)

表3 本県出身の主な文化人、著名人、スポーツ選手など

文学・ ジャー ナリズム	ツガ カナン 陸 羯南 (1857～1907)	新聞「日本」を創刊し、明治時代における我が国の言論界をリードした。	科学 技術	イシダチ モリツウ 石館 守三 (1901～1996)	薬学の世界的権威で、東京大学初代薬学部長。ハンセン病の治療薬「プロミン」の国産化や、国産初のがん化学療法剤「ナイトロミン」の創製に成功した。
	ハニ 羽仁 もと子 (1873～1957)	日本初の女性記者。「家庭之友」(のち「婦人之友」)を創刊するとともに、自由教育を推進するため、「自由学園」を創設した。		キムラ ヒデサ 木村 秀政 (1904～1986)	東京帝国大学(現東京大学)航空研究所が設計し、長距離飛行記録を達成した「航研機」の制作や、初の国産旅客機「YS11」の開発に携わった。
	イシザカ ヨウジロウ 石坂 洋次郎 (1900～1986)	軽快な青春小説で国民的な人気を博した作家。戦後発表された「青い山脈」が大ヒットし、「百万人の作家」と称され、一世を風靡した。		ニシヤマ ショウジ 西山 正治 (1922～1993)	医師。世界初の「レントゲン車」を考案、開発するとともに、多方向から患部を撮影できる「ジャイロスコープ」の開発に取り組んだ。
	ダイイ オサム 太宰 治 (1909～1948)	近代日本文学を代表する作家。「人間失格」「斜陽」「走れメロス」を始め、多くの作品を世に出した。2009年に生誕100周年を迎え、作品が映画化されるなど再び人気が高まっている。		カワグチ ジュンイチロウ 川口 淳一郎 (1955～)	小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。2010年、「はやぶさ」は7年の歳月を経て、小惑星「イトカワ」から捕獲するという世界初の快挙を達成した。
	ニウラ テツオ 三浦 哲郎 (1931～2010)	1961年「忍ぶ川」で、県人初となる、第44回芥川賞を受賞。その後も様々な作品を発表し、数多くの文学賞を受賞した。			
	オサベ ヒデオ 長部 日出雄 (1934～2018)	弘前市出身の小説家、評論家。1973年、「津軽じよんがら節」と「津軽世去れ節」により第69回直木賞を受賞。			
	テラヤマ シュウジ 寺山 修司 (1935～1983)	歌人、詩人、劇作家、映画監督など、多くの分野で活躍。演劇実験室「天井桟敷」を結成し、海外公演も手がけるなど、マルチな才能を発揮した。			
	サワダ キョウイチ 沢田 教一 (1936～1970)	報道カメラマンとして、ベトナム戦争の最前線で取材を行った。撮影した写真は国際的に高い評価を受け、「安全への逃避」はピューリッツァー賞に輝いた。			
	ウメダイ ミカコ 梅内 美華子 (1970～)	歌人。2011年、歌集「エイクウス」が高い評価を受け、文化庁の芸術選奨新人賞を受賞。			
	タカハシ ヒロキ 高橋 弘希 (1979～)	十和田市生まれの小説家。2018年、「送り火」で第159回芥川賞を受賞。県出身者では、三浦哲郎以来57年ぶりの受賞。			
	オノ カツヒロ 奥 勝浩 (1981～)	八戸市生まれの小説家。2020年、「スワン」で第73回日本推理作家協会賞及び第41回吉川英治文学新人賞を受賞。			

美術・音楽	ムナカタ ショウ 榎方 志功 (1903～1975)	「世界のムナカタ」と呼ばれ、20世紀を代表する世界的な「板画家」である。大胆かつ独創的な表現で、他に類を見ない独特の世界を築いた。	歌手・俳優など	イズミヤ 泉谷 しげる (1948～)	青森市長島で生まれ、東京都で育つ。フォークシンガーや役者として活躍中。東北新幹線全線開業のテレビCMでは、新青森駅長を好演した。
	タカヤマ ウイチ 鷹山 宇一 (1908～1999)	画家。花やチョウなどをモチーフに、幻想的な画風で日本画壇に新風を巻き込むとともに、二科会の大重鎮としても活躍した。		ミカミ カン 三上 寛 (1950～)	日本を代表するフォークシンガー。青森をバックボーンに津軽を原風景とした人間の生き様を歌い続ける。詩人として詩集やエッセイも多数。
	クドウ コウジン 工藤 甲人 (1915～2011)	現代日本画界を代表する一人。戦後、湧き起こった新しい日本画の創造を自指す活動に共感し、心象イメージを絵画世界に表す独特の作風を築き上げた。		ヨシ イクゾウ 吉 幾三 (1952～)	歌手。1977年に自身の作詞・作曲による「俺はぜったい！プレッシャー」がヒット。代表曲「俺ら東京さ行くだ」「雪國」「酒よ」など。
	ナリタ トオル 成田 亨 (1929～2002)	彫刻家、特撮美術監督。「ウルトラマン」シリーズの多くの怪獣、ウルトラマン、宇宙人、メカのデザインを手がけ、現代日本文化を代表するモチーフを生み出した。		2代目 イチカワ エミヤ 市川 笑也 (1959～)	歌舞伎俳優。スーパー歌舞伎のヒロインの座を射止め、一躍スターに。2003年に本県で開催された第5回冬季アジア競技大会では、開閉会式の総合演出を担当。
	ナラ ヨシモ 奈良 美智 (1959～)	我が国を代表する現代美術家。国際的にも高い評価を受けており、独特の風貌の少女を描いた作品や、青森県立美術館にある「あおもり犬」で有名。		サトウ テン 佐藤 千香 (1963～)	ロックバンド「Sing Like Talking」のボーカル。音楽プロデューサーとして活躍。1998年、青森市市制100周年記念曲を発表。
	ナンシー 関 (1962～2002)	著名人の似顔絵の消しゴム版画と、これを挿絵として使ったコラムで人気を博した。		フコシ ミツル 吹越 満 (1965～)	俳優。数多くの映画、ドラマに出演。シリアスなものからコミカルなものまで、幅広い役柄を演じ、独特の存在感を発揮している。
	タカハシ チュクサン 高橋 竹山 (1910～1998)	津軽三味線を国内はもとより海外へも広めた津軽三味線演奏の第一人者。アメリカ公演では、「三味線の名匠」と絶賞された。		サカモト サトル 坂本 サトル (1967～)	シンガーソングライター。路上、飲食店、レコード店などでの「CD美演販売ライブ」が話題に。代表曲「天使達の歌」など。
	アワヤ 淡谷 のり子 (1907～1999)	東洋音楽学校（現在の東京音楽大学）を首席で卒業し、歌謡界へ。日本のシャンソン界の先駆者となる。「別れのブルース」「雨のブルース」が大ヒットし、「ブルースの女王」と呼ばれた。		キタヤマ ヨウイチ 北山 陽一 (1974～)	人気男性ヴォーカルグループ、ゴスペルズのメンバーとして活躍。2008年には八戸市から八戸大使に任命される。
	オキサワ 沖澤 のどか (1987～)	世界的指揮者の登竜門で小澤征爾さんらを輩出した仏アザンソング国際若手指揮者コンクールで、2019年に優勝を果たした。日本人として10人目。観客賞とオーケストラ賞も総なめする快挙。		リンカ 凛華 せら (1980～)	宝塚歌劇団星組で男役として活躍。退団後は女優として、ミュージカル、舞台に多数出演。最近ではラーメン達人として活動の幅を広げている。
	スポーツ選手など	サイトウ ハルカ 齋藤 春香 (1970～)		弘前市出身。ソフトボール選手・指導者。2000年シドニー、2004年アテネオリンピックに出場し、主砲として活躍し、2大会連続で銀メダルを獲得。2008年北京オリンピックでは、ソフトボール日本代表監督として金メダルに導いた。	ニヤマ テハル 新山 千春 (1981～)
オハラ ヒトミ 小原 日登美 (1981～)		八戸市出身。2012年ロンドンオリンピック女子レスリング48キロ級で金メダルを獲得。	マツヤマ 松山 ケンイチ (1985～)	むつ市出身の俳優。映画「デスノート」で一躍脚光を浴びる。全編青森県ロケ、全編津軽弁の映画「ウルトラミラクルラブストーリー」に主演。2012年NHK大河ドラマ「平清盛」主演。	
イチヨウ テハル 伊調 千春 (1981～)		八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京オリンピック女子レスリング48キロ級で、2大会連続銀メダルを獲得。	キノ ハナ 木野 花 (1948～)	女優・演出家。弘前大学教育学部美術学科卒業。80年代小劇場ブームの旗手的な存在。2013年NHK連続テレビ小説「あまちゃん」にレギュラー出演。	
イズミヒロシ 泉 浩 (1982～)		大間町出身。2004年アテネオリンピック男子柔道90キロ級で銀メダルを獲得。	ヨコハマ サトコ 横浜 聡子 (1978～)	青森市出身。2008年、商業映画デビュー作「ウルトラミラクルラブストーリー」を監督。全国公開され、多くの海外映画祭にて上映された。	
イチヨウ カオリ 伊調 馨 (1984～)		八戸市出身。2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン、2016年里オデジャネイロオリンピック女子レスリングで、金メダルを獲得。女子個人種目では五輪史上初となる4大会連覇を成し遂げ、2016年に国沢栄賞を受賞。	ヨソカ ダイマオウ 古坂 大魔王 (1973～)	青森市出身。お笑いタレント。「ピコ太郎」の音楽プロデューサーとして「PPAP」を歌う動画の再生回数が1億回を超えるなど世界的に話題となった。	
フルカワ タカハル 古川 高晴 (1984～)		青森市出身。2012年ロンドンオリンピックで、アーチェリー個人戦に出場し、銀メダルを獲得。	エリー ELLY (1987～)	三沢市出身。人気グループ「三代目 SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE」のバフォーマー。	
シバサキ ガク 柴崎 岳 (1992～)		野辺地町出身。プロサッカー選手。2018年FIFAワールドカップにおいて、青森県勢初の日本代表として健闘し、決勝トーナメント進出に貢献した。			
オオタ シノブ 太田 忍 (1993～)		五戸町出身。2016年里オデジャネイロオリンピック男子レスリンググレコローマン59キロ級で、銀メダルを獲得。			

⑧ 体育・スポーツ施設

2018年度にスポーツ庁が実施した「体育・スポーツ施設現況調査」によれば、県内の公共スポーツ施設は798施設ある。2020年12月1日現在の主な県有体育施設は、次のとおりである。新青森県総合運動公園内に整備を進めていた陸上競技場は、2018年12月に本体が完成し、2019年9月から利用を開始している。

また、2019年9月、国内3例目の世界水準の屋内400mスピードスケートリンクを有する長根屋内スケート場（YSアリーナ八戸）が、新たに八戸市でオープンした。

- カクヒログループアスレチックスタジアム〔新青森県総合運動公園陸上競技場〕（青森市）
- マエダアリーナ〔新青森県総合運動公園総合体育館〕（青森市）
- 青森県総合運動公園野球場、屋外水泳場（青森市）
- 盛運輸アリーナ〔青森県営スケート場〕（青森市）
- 青森県武道館（弘前市）

⑨ 県内を拠点に活動するスポーツチーム

県内には、地域と深く密着しながら活動するスポーツチームがあり、スポーツ振興や地域の活性化に貢献している。

【主なスポーツチーム】

- 青森ワッツ（バスケットボール）
青森県を本拠地とするプロバスケットボールチーム。青森県内に初めて設立されたプロスポーツチームで、B.LEAGUEに参戦している。
- HACHINOHE DIME（3人制バスケットボール）
3人制のプロバスケットボールチーム。2019年から3x3.EXE PREMIERに参戦している。
- ヴァンラーレ八戸FC（サッカー）
2018年11月にJ3昇格が正式決定。Jリーグ入会は青森県勢初。
- ラインメール青森FC（サッカー）
2016年から日本フットボールリーグに参戦しJ3昇格を目指している。
- 東北フリースタイルアイスホッケー
八戸市と福島県郡山市をホームタウンとして活動。2009年からアジアリーグに加盟している東北初のトップリーグチーム。

⑩ 総合型地域スポーツクラブ

「誰でも、いつでも、いつまでも」スポーツができる環境づくりと地域コミュニティの形成が有効であると考えられることから、「多世代」、「多志向」、「多項目」により、地域住民が主体となって運営する「総合型地域スポーツクラブ」が全国で展開されている。

本県では、2020年8月1日現在、31市町村で39の総合型地域スポーツクラブが創設されている。また、3町村3クラブが創設に向け準備を進めている。(次頁表4)

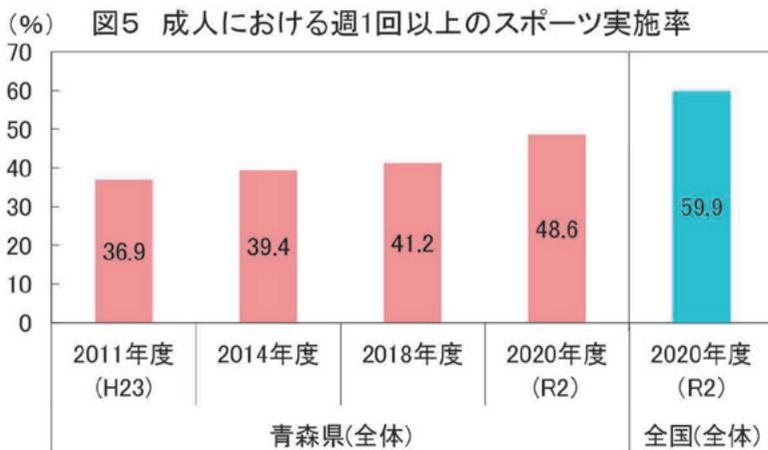
表4 県内の総合型地域スポーツクラブ

クラブ名	市町村名
青森総合スポーツクラブ Willスポーツクラブ 総合型地域スポーツクラブ CLUB Salute Inizio青森	青森市
NPO法人リベロススポーツクラブ NPO法人スポネット弘前	弘前市
ヴァンラーレ八戸スポーツクラブ ウインズスポーツクラブ 一般社団法人総合型地域スポーツHachinohe Club	八戸市
くろいしアスリート アンド エンジョイクラブ	黒石市
五所川原総合スポーツクラブ	五所川原市
総合型スポーツクラブ RED HORSE	十和田市
スポーツクラブみさわ	三沢市
むつアスリートクラブ	むつ市
いながきスポーツクラブ 車力楽笑スポーツクラブ	つがる市
ひらかわスポーツクラブ	平川市
平内ふれあいスポーツクラブ	平内町
平内町総合型地域スポーツクラブACE	
今別町地域総合型クラブWAND	今別町
よもっと元気スポーツクラブ	蓬田村
東津軽郡スポーツクラブ	外ヶ浜町
鱒ヶ沢町スポーツクラブ	鱒ヶ沢町
深浦町総合型地域スポーツクラブ Joy Spo! ふかうら	深浦町
ふじさきいきいきスポーツクラブ	藤崎町
一般社団法人 Roots 大鱧	大鱧町
りんごの里スポーツクラブ	板柳町
鶴田町放課後子どもプラン・子どもスポーツクラブ	鶴田町
六戸町B&Gクラブ	六戸町
東北町旭町地区総合型地域スポーツクラブ	東北町
ひばりさわやかスポーツクラブ	六ヶ所村
大間町総合型地域スポーツクラブ	大間町
東通村総合型地域スポーツクラブ	東通村
五戸町スポーツクラブ	五戸町
スポネットたっこ	田子町
一般社団法人総合型クラブななっち	南部町
一般社団法人ライズはしかみ	階上町
一般社団法人さんのへスポーツクラブEnjoy	三戸町
三ツ岳スポーツクラブ	新郷村

資料：青森県広域スポーツセンター（県教育庁スポーツ健康課内）

⑪ 県民のスポーツ実施率

成人における週1回以上のスポーツ実施率は、着実に増加傾向にあるものの、全国平均を下回っている。(図5)



資料: 県教育庁「県民の健康・スポーツに関する意識調査」、
スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

⑫ あおもりアスリートネットワーク

本県にゆかりのあるオリンピックやトップアスリート、指導者等が主体となり、スポーツを通じた様々な社会貢献活動を展開する「あおもりアスリートネットワーク」が2012年11月に設立され、県民のスポーツを推進するための活動や、本県における競技力向上のための活動、青少年の健全育成や健康増進のための活動を行っている。(令和2年5月時点、メンバー41名)(次頁表6)

表6 あおもりアスリートネットワークメンバー（2020年5月現在）

No.	役員	氏名	競技種目
1	代表	齋藤 春香	ソフトボール
2	副代表	赤石 光生	レスリング
3	副代表	金濱 康光	スピードスケート
4	副代表	三ヶ田 礼一	ノルディックスキー
5	幹事	野澤 英二	車椅子マラソン・バイアスロン
6	幹事	山下 祐史	ラグビー
7	幹事	山谷 千春	レスリング
8	会計監事	吉田 理子	ボート
9		五十嵐 祐司	空道
10		五十嵐 理一	ボクシング
11		泉 浩	柔道
12		伊調 馨	レスリング
13		岩谷 高峰	アルペンスキー
14		蝦名 康一	レスリング
15		小原 日登美	レスリング
16		金浜 良	レスリング
17		岸本 鷹幸	陸上競技(400mハードル)
18		熊谷 克仁	アルペンスキー
19		蹴揚 将行	柔道
20		古川 純一	ノルディックスキー
21		齊藤 直飛人	相撲
22		坂本 勉	自転車競技
23		坂本 朋子	アルペンスキー・シッティングバレーボール
24		佐々木 一成	ノルディックスキー
25		春藤 るみ	新体操
26		当麻 成人	水球
27		高橋 一馬	アイスホッケー
28		鳥谷部 真弓	柔道
29		中澤 祐政	ノルディックスキー
30		長濱 一年	ノルディックスキー
31		新山 夏葵	テコンドー
32		野口 紀子	ボート
33		旗 修子	ノルディックスキー
34		畑山 茂雄	陸上競技(円盤投げ)
35		藤田 博臣	柔道
36		福土 加代子	陸上競技(長距離)
37		古川 高晴	アーチェリー
38		三浦 孝之	アイスホッケー
39		三上 正貴	ラグビー
40		宮崎 未樹子	柔道・レスリング
41		吉本 岳史	サッカー

IV 地域別情報

県では地域づくりの中心的役割を担う市町村に対して組織的な支援を行うことを目的として、県内6地域に地域県民局を設置しているが、地域ごとに産業や風土に様々な特色がある。

ここでは、地域の産業構造の比較やその特長を紹介するとともに、地域別の主な指標について掲載する。

地域県民局管内図

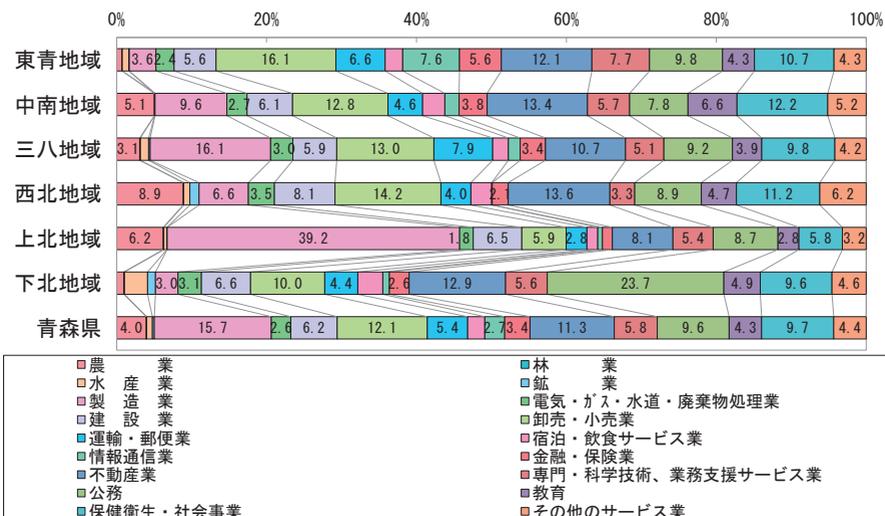


1 地域別の産業構造

各地域の域内総生産について、経済活動別に構成割合を見ると、上北地域を除いた5地域で第3次産業の割合が7割を超えており、特に、東青地域・下北地域では8割超と高くなっている。(図1)

他地域との比較では、総生産額の推計上、持家の帰属家賃の影響が大きい「不動産業」を除くと、東青地域・中南地域・西北地域は「卸売・小売業」、三八地域・上北地域は「製造業」、下北地域は「公務」が大きな割合を占めている。

図1 地域別の域内総生産（2017年度）



※ 税等を控除していないため、合計は100%を超える。 資料：県企画政策部「平成29年度市町村民経済計算」

※ 産業分類

第1次産業：農業、林業、水産業

第2次産業：鉱業、製造業、建設業

第3次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、
 運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業
 不動産業、専門・科学技術・業務支援サービス業、公務、教育、
 保健衛生・社会事業、その他のサービス業

※ 持家の帰属家賃…持家の住宅から得られるサービスに相当する価値を見積もり、これを住宅費用とみなした場合に支払われるであろう家賃のこと。実際には金銭の受払を伴わない。

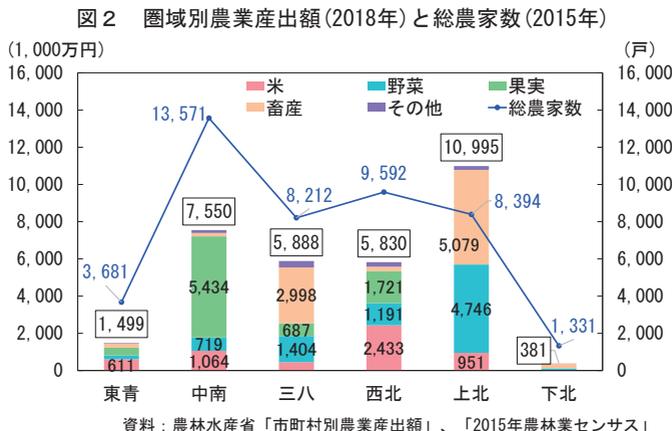
2 産業別に見る地域の特長

(1) 農業の盛んな中南・西北・上北地域

2018年の農業産出額は上北地域が最も高くなっており、県全体の約34%を占める。上北地域・三八地域は畜産や野菜、中南地域はりんごを中心とした果実、西北地域は米が多いなど、地域ごとに特長がある。

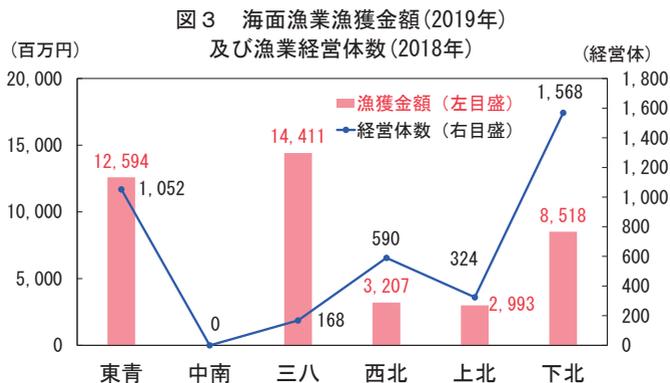
総農家数は中南地域が最も多く、次いで西北地域、上北地域の順となっている。

(図2)



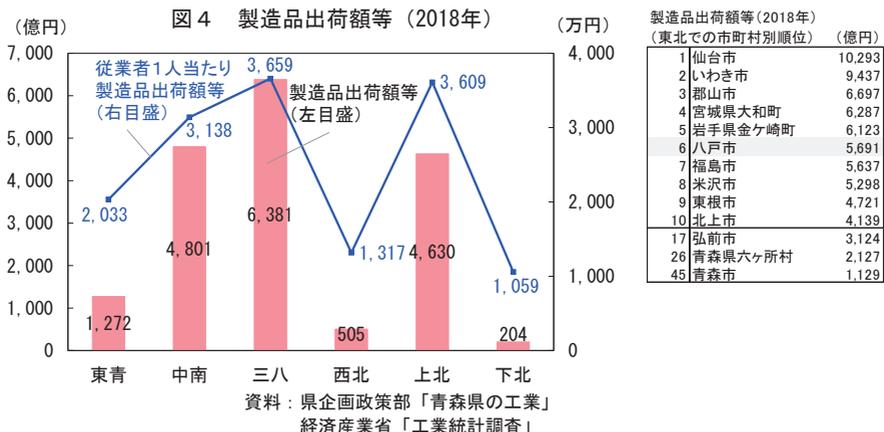
(2) 水産業の盛んな三八・東青・下北地域

2019年の海面漁業漁獲金額は、八戸港を擁する三八地域が約144億円と最も高くなったが、2018年の約174億円からは約17.3%の減となった。大規模経営体が多い三八地域は下北、東青地域と比べて漁業経営体数は少なくなっている。(図3)



(3) 製造業を支える三八・上北地域

2018年の製造品出荷額等は、八戸市での食料品、飼料、紙パルプ、鉄鋼などの出荷額が多い三八地域が6,381億円と最も高く、県全体の約35.9%を占めている。従業者1人当たりでも三八地域が最も高い水準となっている。(図4)

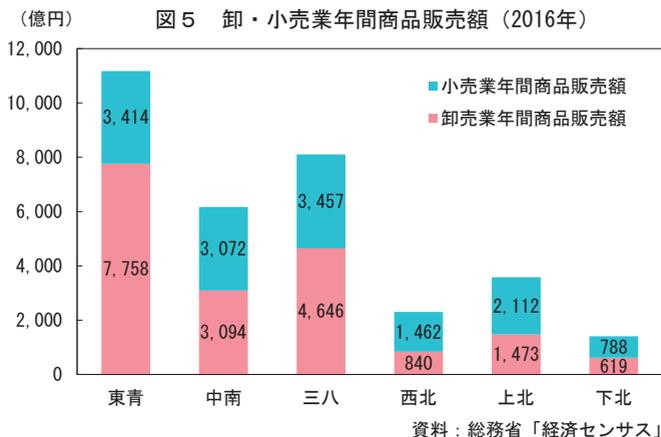


(4) 商業の中心地・東青地域

2016年の卸・小売業年間商品販売額をみると、東青地域が最も多く、このうち青森市が占める割合は約99%となっている。

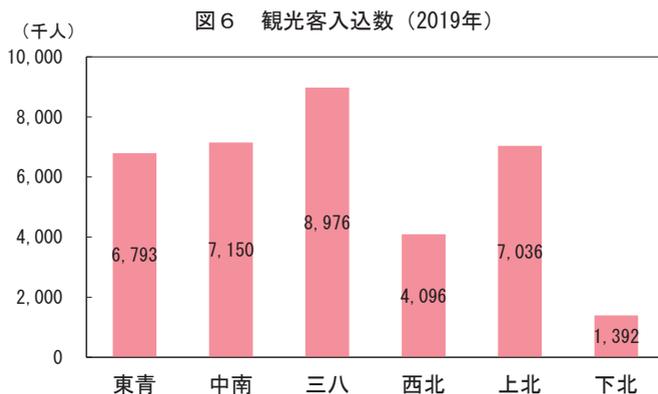
三八地域に占める八戸市の割合は約93%、中南地域に占める弘前市の割合は約80%であり、青森市、八戸市、弘前市に商業機能が集中していることがわかる。

(図5)



(5) 観光客が多く訪れる三八・中南地域

2019年の県全体の観光客入込数は35,442千人と、概ね前年比で横ばい(+1.2%)となっており、地域別では、三八地域が2010年から10年連続で最も高い入込数となっている。(図6)

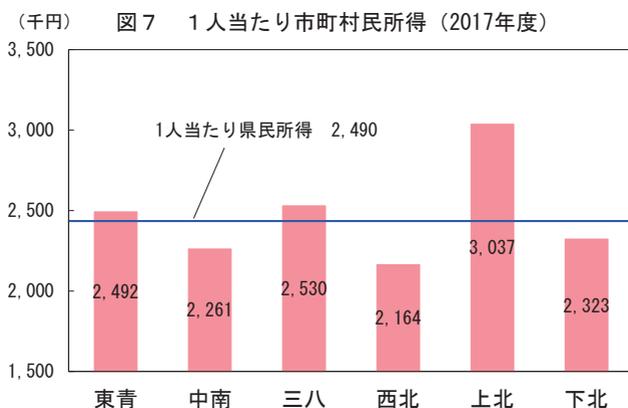


資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

(6) 1人当たり市町村民所得の高い上北地域

2017年度の市町村民経済計算における1人当たり市町村民所得は、六ヶ所村、西目屋村、おいらせ町、八戸市、東通村の順に高くなっている。

地域別では上北地域の3,037千円が最も高く、次いで三八地域2,530千円、東青地域2,492千円となっている。(図7)

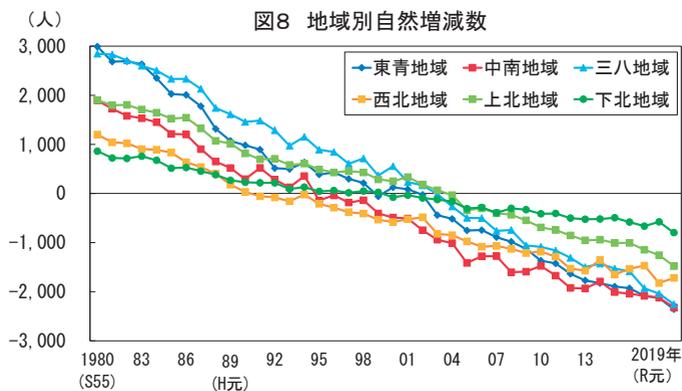


資料：県企画政策部「平成29年度市町村民経済計算」

(7) 各地域の人口動態

<自然動態>

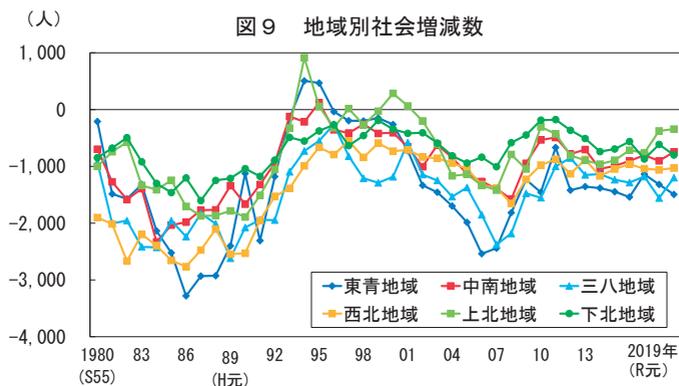
自然動態（出生数－死亡数）は、西北地域が他地域に先駆けて1991年から自然減に転じた。全県的に自然減に転じたのは1999年であったが、三八地域は2003年、上北地域は2004年と、比較的遅い段階で自然減となり、その後は、全ての地域において自然減が続いている。（図8）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

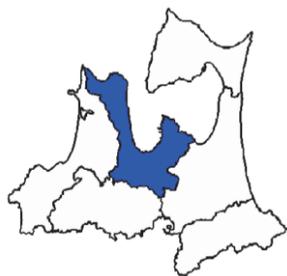
(8) 各地域の社会動態

社会動態（転入者数－転出者数）では、特に東青地域や上北地域において年ごとに大きな変化が見られ、経済情勢等による影響を大きく受けているものと考えられる。三八、西北、下北地域では1980年以降一貫して、2002年以降は全ての地域において社会減が続いている。（図9）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

3 地域の現状



東青地域

	人口（人）	世帯数	面積（km ² ）
青森市	278,964	136,457	824.61
平内町	10,791	4,907	217.09
今別町	2,560	1,412	125.27
蓬田村	2,740	1,147	80.84
外ヶ浜町	5,816	2,848	230.30
合計	300,871	146,771	1,478.11

資料：総務省（人口・世帯数、2020年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2020年10月1日現在）

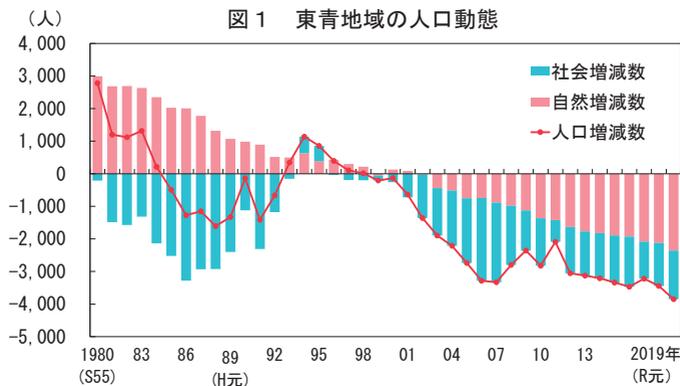
地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
青森						
平年値	10.4	27.7	-3.9	1,602.7	1,300.1	669
2020	11.6	35.7	-7.4	1,598.9	1,419.0	264

※平年値：1981～2010年の累年平均値

資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、2002年以降減少が続いており、減少幅が年々拡大している。社会動態は、2007年以降は減少幅が縮小する時期もあったが、2013年以降再び減少幅が拡大傾向にある。（図1）

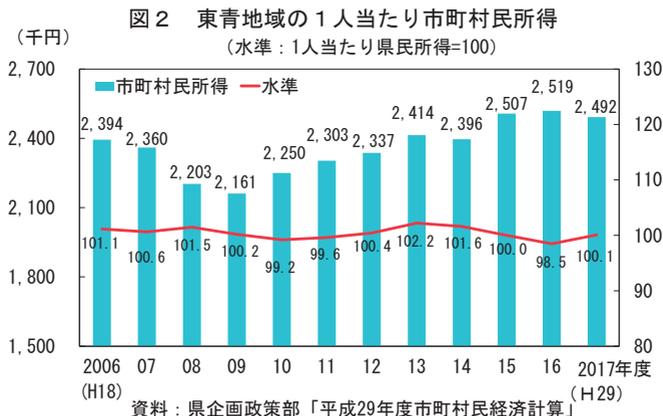


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

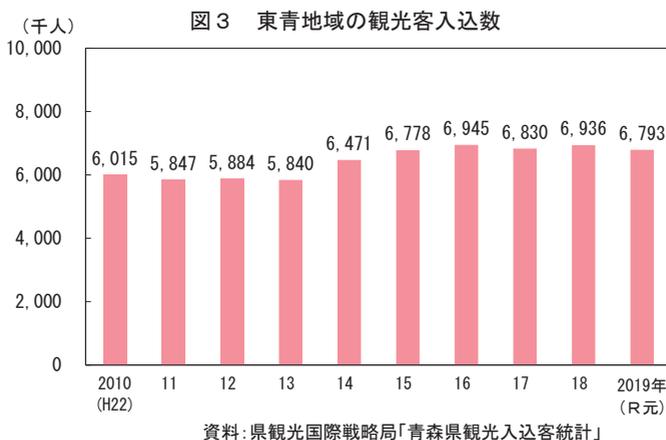
東青地域の1人当たり市町村民所得は、2010年度以降は概ね増加傾向にある。

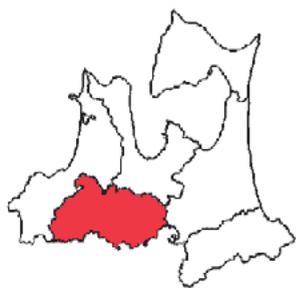
また、1人当たり県民所得に対する東青地域の1人当たり市町村民所得の水準は、2014年度以降低下していたが、2017年度は上昇した。(図2)



■ 観光客入込数

東青地域の観光客入込数は、2014年以降600万人以上で推移しており、2019年は年間約679万人となった。(図3)





中南地域

	人口（人）	世帯数	面積（km ² ）
弘前市	168,683	79,891	524.20
黒石市	32,900	13,818	217.05
平川市	30,938	12,051	346.01
西目屋村	1,340	556	246.02
藤崎町	14,921	6,068	37.29
大鰐町	9,322	4,201	163.43
田舎館村	7,720	2,797	22.35
合計	265,824	119,382	1,556.35

資料：総務省（人口・世帯数、2020年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2020年10月1日現在）

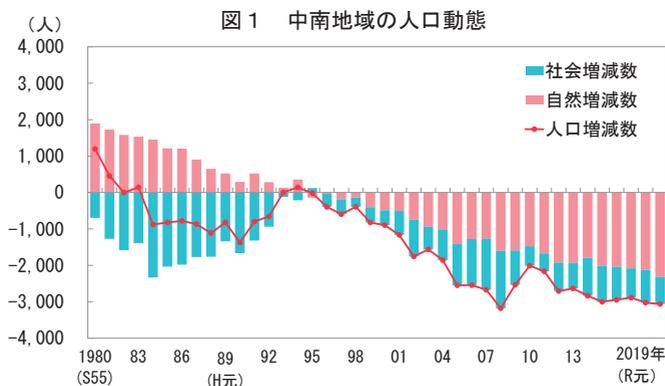
地点	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
弘前						
平年値	10.2	28.9	-5.0	1,597.5	1,183.1	748
2020	11.5	36.7	-8.2	1,647.1	1,433.5	343

※平年値：1981～2010年の累年平均値

資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、1995年以降減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。社会動態は2014年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図1）

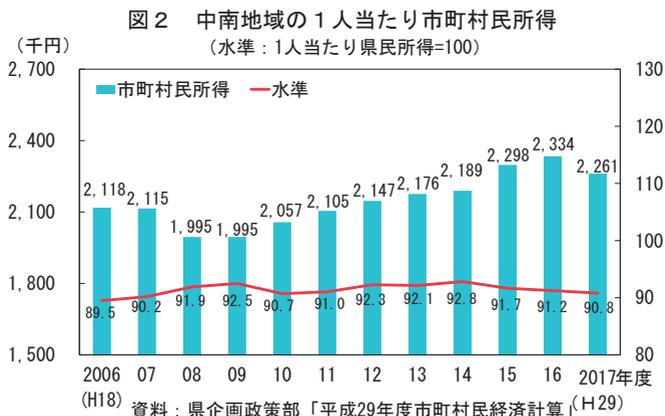


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

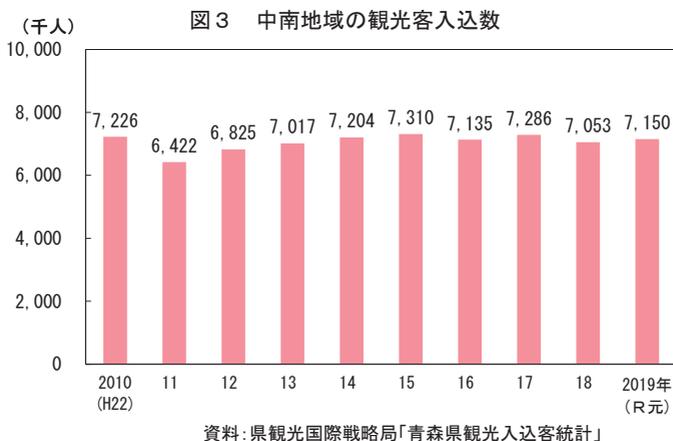
中南地域の1人当たり市町村民所得は、2009年度から増加傾向にあったが、2017年度は減少に転じた。

また、1人当たり県民所得に対する中南地域の1人当たり市町村民所得の水準は、2009年度以降はほぼ横ばいの状況にある。(図2)



■ 観光客入込数

中南地域の観光客入込数は、東日本大震災後に減少していたが、徐々に回復し、現在は横ばい傾向にある。(図3)





三八地域

	人口（人）	世帯数	面積（km ² ）
八戸市	226,541	108,889	305.56
三戸町	9,814	4,260	151.79
五戸町	16,880	7,006	177.67
田子町	5,353	2,142	241.98
南部町	17,754	7,430	153.12
階上町	13,342	5,973	94.00
新郷村	2,408	922	150.77
合計	292,092	136,622	1,274.89

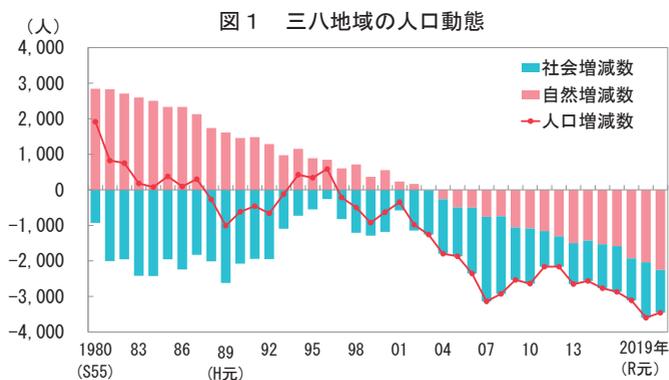
資料：総務省（人口・世帯数、2020年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2020年10月1日現在）

地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
八戸						
平年値	10.2	26.5	-4.2	1,860.4	1,025.1	248
2020	11.3	35.5	-8.6	1,741.2	1,231.0	87

※平年値：1981～2010年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

自然動態は、2003年に減少に転じて以降、減少幅が拡大傾向にある。社会動態は、2018年の-1,557人から2019年は-1,200人と減少幅が縮小した。（図1）

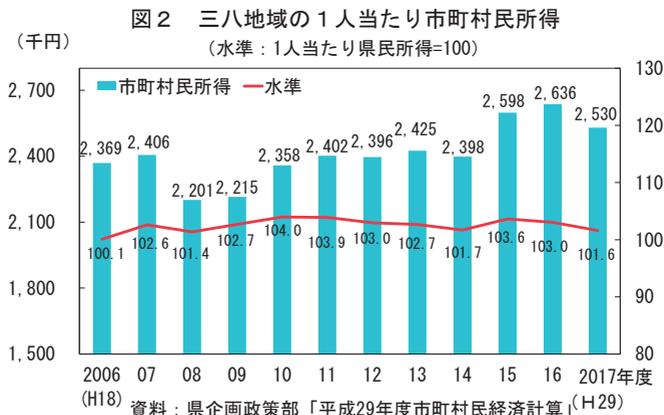


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

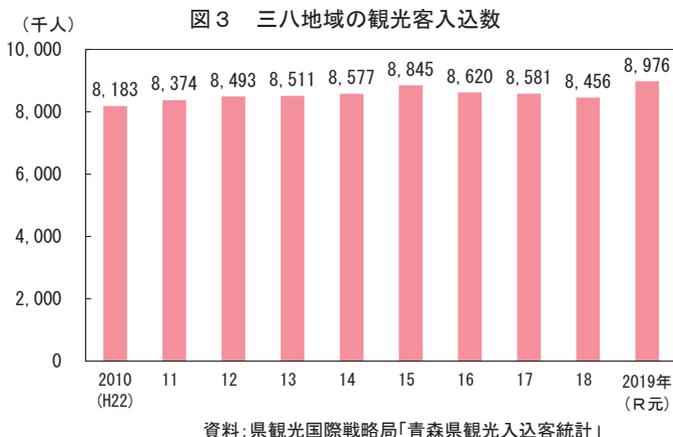
三八地域の1人当たり市町村民所得は、やや落ち込みが見られる年度もあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

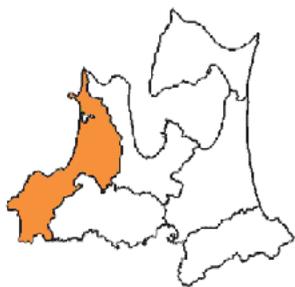
また、三八地域の1人当たり市町村民所得水準については、2015年度は上昇したものの、2016年度から減少に転じている。(図2)



■ 観光客入込数

三八地域の観光客入込数は概ね横ばい傾向にある。2016年以降は3年連続で減少したが、2019年は約898万人と増加に転じた。(図3)





西北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km ² ）
五所川原市	53,576	25,568	404.20
つがる市	31,723	13,570	253.55
鱒ヶ沢町	9,613	4,542	343.08
深浦町	7,903	3,695	488.90
板柳町	13,332	5,450	41.88
鶴田町	12,604	5,382	46.43
中泊町	10,779	5,093	216.34
合計	139,530	63,300	1,794.38

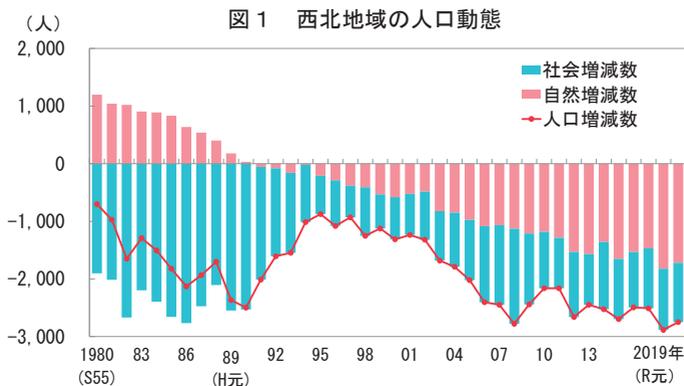
資料：総務省（人口・世帯数、2020年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2020年10月1日現在）

地点	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
五所川原						
平年値	10.3	28.1	-4.6	1,549.9	1,223.8	582
2020	11.6	36.2	-7.8	1,607.4	1,414.5	206

※平年値：1981～2010年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

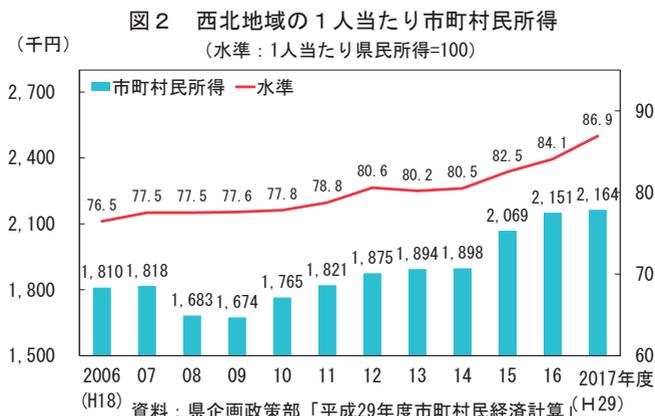
自然動態は、県内で最も早い1991年に減少に転じており、これ以降、年々減少幅が拡大してきている。社会動態は2009年から2011年までは減少幅が縮小していたが、2012年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図1）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

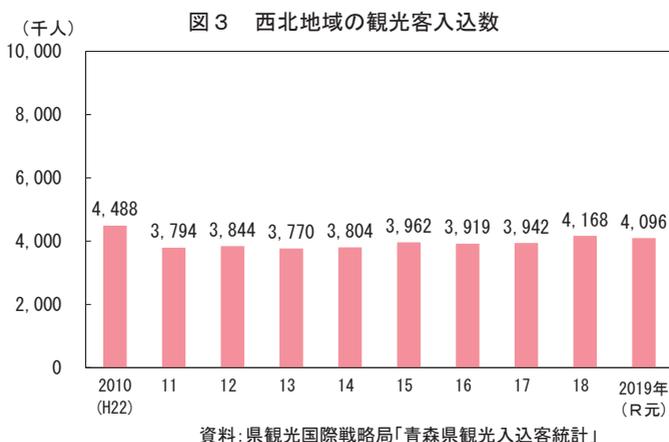
■ 1人当たり市町村民所得

1人当たり市町村民所得は、2010年度から増加傾向にある。1人当たり県民所得を100とした時の水準は他地域と比較して低い水準となっているが、近年上昇傾向が見られる。(図2)

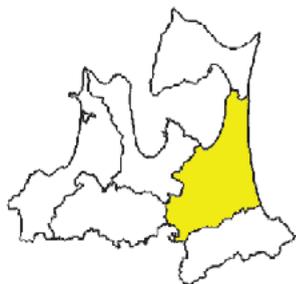


■ 観光客入込数

観光客入込数は、微増傾向で推移していたが、2019年は前年比-1.7%の4,096千人となっている。(図3)



上北地域



	人口（人）	世帯数	面積（km ² ）
十和田市	60,697	27,677	725.65
三沢市	39,093	19,233	119.87
野辺地町	12,956	6,466	81.68
七戸町	15,286	6,797	337.23
六戸町	10,994	4,519	83.89
横浜町	4,412	2,086	126.38
東北町	17,297	7,269	326.50
六ヶ所村	10,200	4,884	252.68
おいらせ町	25,149	10,423	71.96
合 計	196,084	89,354	2,125.84

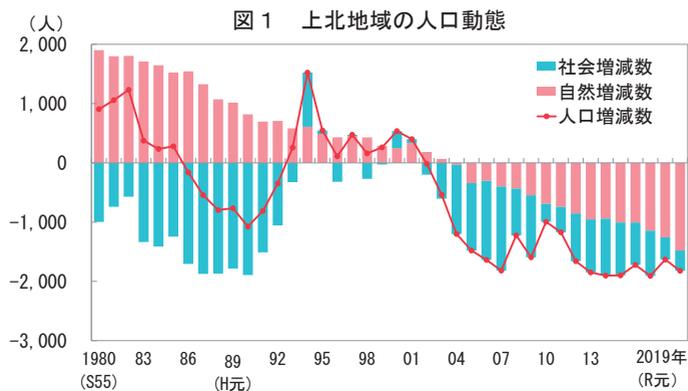
資料：総務省（人口・世帯数、2020年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2020年10月1日現在）

地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
十和田						
平年値	9.5	26.9	-6.3	1,774.7	983.3	437
2020	10.4	35.1	-16.1	1,676.1	1,236.5	173

※平年値：1981～2010年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

上北地域の自然動態は、2004年から減少に転じ、年々減少幅が拡大している。社会動態は2018年から減少幅が大きく縮小したが、2019年は自然増減数の減少幅が拡大したため、全体の人口増減数が拡大した。（図1）

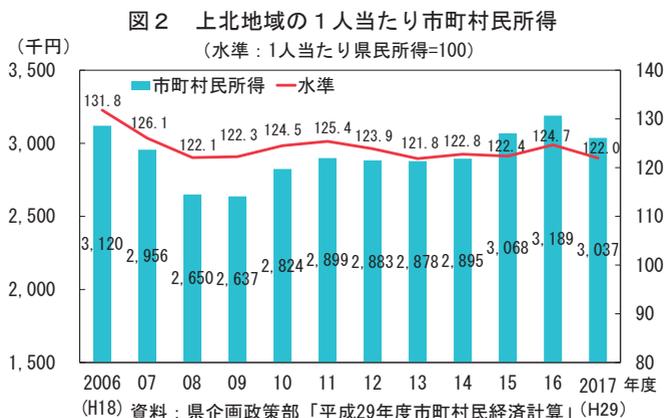


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

■ 1人当たり市町村民所得

上北地域の1人当たり市町村民所得は、非鉄金属製造業の製造品出荷額等の増加などにより大きく伸びていたが、2017年は減少に転じた。

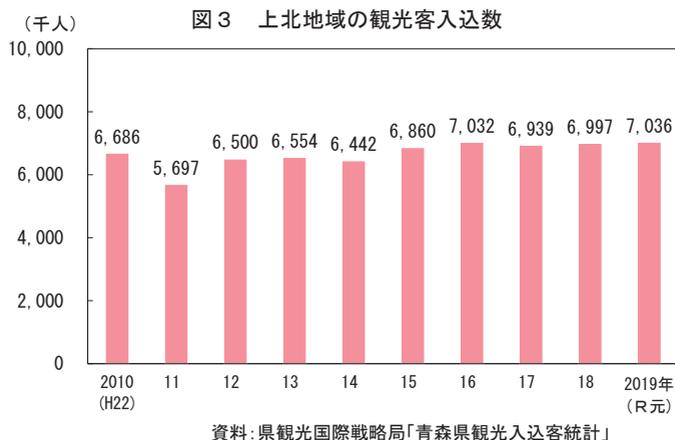
2006年度以降すべての年度で1人当たり県民所得を100とした水準を上回っており、他地域と比較しても最も高い水準にある。(図2)



■ 観光客入込数

上北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響と見られる減少があったものの、近年は700万人前後で推移しており、2019年は7,036千人となっている。

(図3)



下北地域



	人口（人）	世帯数	面積（km ² ）
むつ市	56,244	28,778	864.12
大間町	5,155	2,497	52.1
東通村	6,254	2,815	295.27
風間浦村	1,833	914	69.55
佐井村	1,930	938	135.04
合計	71,416	35,942	1,416.08

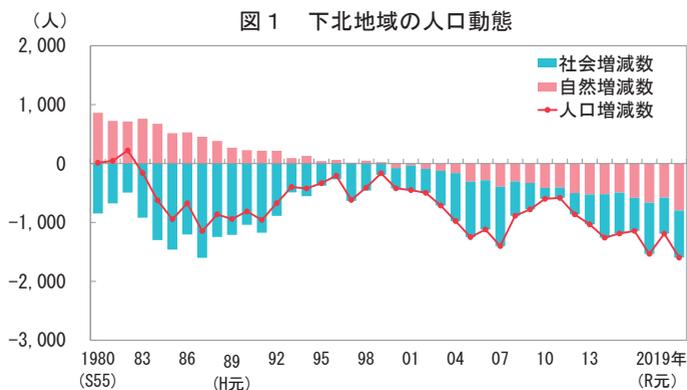
資料：総務省（人口・世帯数、2020年4月1日現在、住民基本台帳）
国土地理院（面積、2020年10月1日現在）

地点 むつ	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
平年値	9.5	25.7	-5.3	1,608.9	1,342.0	514
2020	10.5	33.5	-14.3	1,456.1	1,385.5	213

※平年値：1981～2010年の累年平均値
資料：気象庁

■人口動態

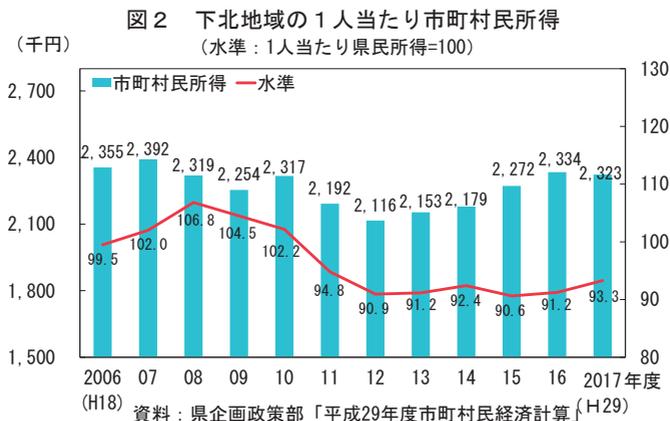
下北地域の自然動態は、2000年に減少に転じ、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態では2018年は減少幅が縮小し、自然増減数と合わせた全体の人口増減数も減少幅が縮小したが、2019年は自然増減数の減少幅が増加したため、全体の人口増減数の減少幅が増加した。（図1）



資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

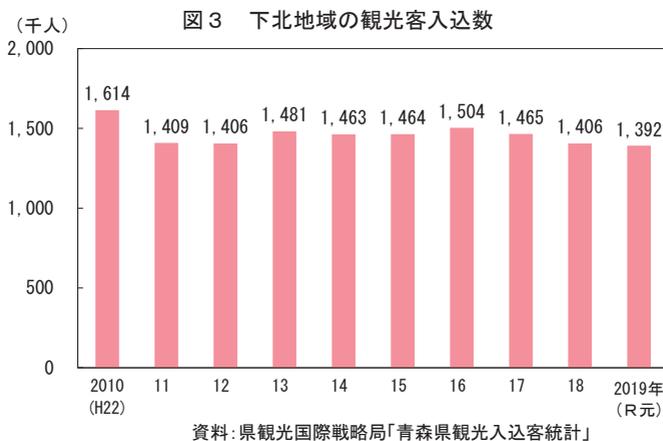
■ 1人当たり市町村民所得

下北地域の1人当たり市町村民所得は、2011年度と2012年度に減少が見られるが、その主な原因は企業所得の減少によるものである。1人当たり県民所得を100とした水準は低下傾向にあるものの、ここ数年は横ばいである。(図2)



■ 観光客入込数

下北地域の観光客入込数は、東日本大震災の影響で大きく落ち込み、その後徐々に回復していたものの、2017年以降は微減傾向にある。(図3)



4 地域のこが推し

東青地域のこが推し

◆気候と風土と地域の人が育んだ「極上トマト」(蓬田村)

蓬田村では、日中の寒暖差と清らかな水といった雄大な自然の恩恵を最大限に活かした極上のトマトの生産が盛んです。

例年夏から秋にかけて収穫される同村のトマトは「甘味・酸味・うまみ」のバランスが絶妙で、中にはフルーツを思わせるような甘味の強いものもあり、そのまま食べても料理に使っても濃厚で深い味わいを楽しむことができます。

村ではこの極上トマトを使用したケチャップなどの加工品を販売しているほか、地元の卵も活用したオムライスなどのメニューを提供している施設もあります。

トマトに対する考えが変わるかもしれない極上トマト、是非味わってみてください。



蓬田村のトマト

◆小湊のハクチョウおよびその渡来地！浅所海岸（平内町）

平内町の浅所海岸を基点とする夏泊半島一帯はハクチョウの渡来地として、文化財保護法により全国で唯一「特別天然記念物」に指定されています。

ハクチョウは例年10月中旬頃にシベリア方面から同地域に渡来し、3月下旬頃まで留まり、いつでもふれあうことができます。

また、夏泊半島一帯は、夏場はキャンプや海水浴を楽しむことができるほか、ウォーキングなどによりツバキなどの山野の花の観賞もできるなど、年間を通じて幅広い世代が楽しむことができるエリアです。

浅所海岸（夏泊半島）で自分の好きな季節を見つけてみませんか。



浅所海岸の白鳥

中南地域のここが推し

◆弘前市に新たな芸術空間「弘前れんが倉庫美術館」

明治・大正期に酒造工場として建てられ、約 100 年の歴史を刻んできた吉野町煉瓦倉庫が、2020 年 6 月、美術館として生まれ変わりました。

「記憶の継承」と「風景の創生」をコンセプトに改修された煉瓦倉庫、この美術館自体がアート作品のようです。

年間プログラムは、「春夏」、「秋冬」、「冬」の 3 つのシーズンで構成され、「春夏」、「秋冬」は美術館による展覧会を開催、冬シーズンは映画上映、パフォーマンスなどの特別イベントのほか、市民の様々な活動にも使用されます。

弘前市の街並みと調和した芸術空間。まち歩きをしながら、ふらりと美術館へというのも楽しそうです。



建物自体がアート作品のよう

◆黒石市に「こみせの宿 ホテル逢春」^{ほうしゆん}誕生

木造のアーケードや酒蔵、商家などが建ち並ぶ黒石市中町こみせ通りに、2020 年 6 月 1 日、「こみせの宿 ホテル逢春」が誕生しました。

こみせ通り商店街振興組合が中心となり、気軽に使える宿泊施設としてオープンしたホテル逢春は、木造のアーケードをイメージした木目調の外観で、初めて来た人にも懐かしさを感じさせるやさしい佇まいです。

市内には手軽に入れる温泉銭湯が多数あり、郊外には温湯/落合/板留/青荷の黒石温泉郷があります。

黒石の伝統に触れ、温泉でのんびり、宿泊はホテル逢春でまったりと。素敵な旅になりそうです。



落ち着きある客室

三八地域のここが推し

東日本大震災から10年。三八地域では、震災を記憶し、自然に親しむスケールの大きな取組が、地域の元気づくりを応援しています。

◆総距離約1,000km「みちのく潮風トレイル」

トレイルとは、森林や原野、里山等にある歩くための道を指す言葉です。2019年6月、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ総距離約1,000kmのロングトレイル「みちのく潮風トレイル」が全線開通しました。



みちのく潮風トレイル

みちのく潮風トレイルでは、海を中心とした東北太平洋沿岸ならではのダイナミックで美しい景観や、地元に住む人々とのふれあいを楽しめる一方で、津波災害による痕跡が今も各地に残る等、自然の豊かさと厳しさの両面を感じることができます。北の玄関口である蕪島には、起終点であることを指すモニュメント「トレイルヘッドアンドエンドポイント」が設置されています。八戸市と福島県相馬市の2箇所にしかな設置されていない特別な場所ですので、記念撮影にオススメです。

◆日本一広大なジオパーク「三陸ジオパーク」

三陸ジオパークは、2013年9月に日本ジオパークとして認定されました。エリアは青森県八戸市から岩手県の沿岸を縦断して宮城県気仙沼市まで、南北約220kmと長く、日本一広大なジオパークとされています。



大須賀海岸の鳴砂

ジオパークとは、地球の貴重で美しい地形・地質、生態系と人類の歴史・文化との関わりを学び、体感することができる場所のことです。三陸ジオパークは、ダイナミックな海岸線が織り成す自然景観に加え、東日本大震災など、様々な自然災害を繰り返し経験した地域でもあり、自然災害に対する先人たちの営みや震災の記憶を学ぶことができる貴重な場所であることが特徴です。八戸市のジオサイトは、現在11箇所あり、蕪島や種差天然芝生地等、たくさんの見どころがあります。特に、蕪島はウミネコの一大繁殖地として有名であり、間近で巣を観察することができます。各地のジオサイトをめぐり、大地の魅力にふれてみませんか。

西北地域のここが推し

◆貴重なステンドグラスと大正浪漫漂う「宮越家住宅」（中泊町）

宮越家は江戸時代から代々地域を代表する豪農として栄え、明治以降も商業・金融業に進出し、地域経済の中心となっていた旧家です。その第9代当主が完成させた100年の歴史を有する邸宅が現在、大正浪漫漂うコンテンツとして注目されています。

屋敷内には主屋のほか、文庫蔵・米蔵・離れ「詩夢庵（しむあん）」などの建造物と、「静川園（せいせんえん）」をはじめとする庭園が所在します。

特に離れのステンドグラス作品は、わが国のステンドグラス先駆者である小川三知（おがわ・さんち）の最高傑作と位置づけられています。十三湖のほとりを描き上げた作品をはじめとする3点の作品は、歴史あるこの旧家のシンボルとして広く紹介されました。

中泊町は2020年までに「宮越家離れ」「宮越家主屋」などを町有形文化財（建造物）に、「宮越家庭園」を町記念物（名勝）に指定しました。2020年11月の一般公開には期間中に3110人の方が訪れ、町は今後も施設の整備と併せ、一般公開を行うことにしています。



ボランティアガイドがご案内



町名勝指定を受けている庭園

◆「あまびえたん」が人気の津軽金山焼（五所川原市）

津軽金山焼は、五所川原市東部の金山地区の大溜池の底に堆積する良質の粘土、風雪に耐えてきた山林の木質資源を生かし、1985年に誕生しました。

かつてこの地で生産されてきた平安時代の須恵器（すえき）の強い影響を受けた津軽金山焼は、1350度の高温でじっくりと焼きあげて固める「焼き締め」の手法が特徴で、深みのある独特の風合いをそなえた焼き物を生み出してきました。

近年では釉薬や漆を施した製品のほか、動物などを模した可愛らしいデザインのものも登場。新型コロナウイルス感染症が流行った2020年は、疫病退散を願うとされる妖怪「アマビエ」をモチーフにした「あまびえたん」が人気を集めました。同年冬には新たな窯も完成し、焼成中の窯内の様子を見学できるようになりました。



「あまびえたん」シリーズ

上北地域のここが推し

◆幻の発酵食「ごど」をご存じですか？（十和田市）

十和田市の一部の地域で昔から食べられてきた「ごど」が密かなブームになっています。

「ごど」は、大豆に麴と塩を混ぜて1週間以上乳酸発酵させたもので、ゆるく汁気のある納豆のような食感です。できたての頃は納豆に似ていますが、発酵が進むにつれ酸味が増え、さらに発酵が進むと甘酒やチーズのような風味

も感じられます。昔から食べている人は「ご飯にかけるのがおいしい」と言いますが、青菜のおひたしにかけたり、ドレッシングのように混ぜるなど、野菜との相性も抜群です。

昭和の初め頃までは各家庭で作られてきたようですが、現在では作る人が少ないうえに、冬にしか仕込まないので、農産物直売所でも商品として出回るのはごく少量です。免疫力を高め、カラダによいとされる発酵食品ですので、おうちで「ごど」作りにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。



伝統的な発酵食「ごど」

＜「ごど」の作り方＞

- 1) 大豆をフライパンで焦げ目が付くくらい炒る。
- 2) お盆に乗せた炒った大豆にビンや升などの底を押し当てて擦り、皮を取り除く。
- 3) 皮を取った大豆を一晩水に浸け、翌日たっぷりの水でゆでるか蒸す。
- 4) 3の大豆のゆで汁を別の容器に移したあと、ゆでた大豆に市販の納豆を数粒加えて蓋をし、こたつの中で一晩温める。ゆで汁は冷めたら冷蔵庫に入れる。
- 5) 一晩温めた大豆に、手で擦り混ぜた麴と塩、冷蔵庫に入れておいたゆで汁を混ぜる。
- 6) 1週間ほど冷暗所か冷蔵庫で寝かす。発酵具合で味が変わるので好みの風味で。

◆小川原湖でカヤック体験（三沢市）

汽水湖である小川原湖は、水産資源が豊富で「宝湖」と呼ばれていますが、近年ではアウトドアブームもあり、湖畔沿いに整備されたキャンプ場やコテージ、オートキャンプ場では家族連れなど多くの人が気軽にアウトドアを楽しんでいます。

そんな中、大注目なのはカヤック体験です。小川原湖の最深部は水深約25mですが、岸から200m程度は水深約2mの遠浅な湖のため、大人から子供まで安心して体験することができます。

太陽が八甲田連峰に向かって、湖面に輝きながら沈んでいく様はまさに絶景です。三沢市の大自然をぜひ体験してください。



家族でカヤック体験

下北地域のここが推し

◆にぎわいの新たな拠点「下風呂温泉 海峡の湯」（風間浦村）

2020年12月1日、室町時代から湯治場として栄えてきた風間浦村の下風呂温泉郷に新たな浴舎「下風呂温泉 海峡の湯」がオープンしました。文豪・井上靖が宿泊した旅館の跡地に建設された新浴舎は、浴槽や椅子など至るところに「村の木」であるヒバが使われており、入口に足を踏み入れた瞬間から優しい香りが体を包んでくれます。



「下風呂温泉 海峡の湯」

海峡の湯では、長年村民に愛され、惜しまれながら閉館した公衆浴場「大湯」「新湯」と旧長谷旅館の「井上靖ゆかりの湯」の3つの異なる源泉を楽しむことができます。2階には、井上靖が風間浦村を舞台とした小説「海峡」を執筆したとされる部屋が再現されているほか新島襄など村にゆかりのある著名人の展示コーナーがあります。

また、館内の食堂では鮫鱈やイカなど風間浦村が誇る海の幸が味わえます。特に鮫鱈は、近くの漁場で獲れたものをすぐに捌いて冷凍することで、いつでも鮮度の良い状態で味わうことができます。ぜひ足を運んでいただき、この素敵な空間でゆったりと癒しの時間をお楽しみください。

◆修道院ワイナリーを再現「卍ワイン」（大間町）

本州最北端の大間町にあるお寺「梅香山崇徳寺（ばいこうざんそうとくじ）」には、山ぶどうワイン「卍ワイン silent snow」を製造している全国でも珍しい寺ワイナリーがあります。

自家栽培の山ぶどう（改良種）を100%使用しているこのワインは、お寺の境内という静かな環境で、強制濾過を極力避け自然の沈降に委ねた製法で作られています。フルーティーでナチュラルな酸味とさわやかな微発泡が特長のワインです。



「卍ワイン silent snow」

また、このお寺では、境内の湧き水を活用してクラフトビールも製造しています。本州最北端の地ビールのラインナップは、ビールがピルスナーとラガーの2種類、発泡酒はピター、パールエール、スタウトのほか期間限定商品もあり、パリエーションも豊富です。

このワインとビールは、お寺の直売所のほか下北管内のお土産物屋でも買うことができます。ぜひ下北土産に1本いかがでしょうか。

特集 ①

東北新幹線全線開業 10 年の歩み



全線開業から 10 年を迎えた東北新幹線のこれまでの歩みをご紹介します。

1 東北新幹線が開業するまで

青森と東京が鉄路で結ばれた 1891 年当時、上野～青森間は 26 時間以上かかっていましたが、1958 年には特急「はつかり」により 12 時間に、東北全線が電化を果たした 1968 年には約 8 時間 30 分と、徐々に東京との時間距離は短縮されていきました。

1971 年 1 月 18 日に東北・上越・成田 3 新幹線基本計画が決定し、同年 11 月 28 日に東北新幹線東京～盛岡間が着工します。大宮～盛岡間、上野～大宮間、東京～上野間が順次開業していく中、1991 年 9 月 4 日に盛岡～青森間が着工、1996 年の東北新幹線八戸～新青森間のフル規格化決定を経て、ついに 2002 年 12 月 1 日、盛岡～八戸間が開業し、青森県に E 2 系新幹線「はやて」がやってきました。



E 2 系新幹線「はやて」

1998 年 3 月 28 日の八戸～新青森間の着工から 12 年以上の歳月を経て、2010 年 12 月 4 日に全線開業を果たした東北新幹線は、2020 年 12 月 4 日に開業 10 周年を迎えました。(次頁表 1)

八戸～新青森間開業前は最高速度 275 km/h で、東京～青森間（八戸～青森間は在来線利用）は 3 時間 59 分で結ばれていましたが、全線開業後は東京～新青森間の最高速度は 300 km/h、所要時間 3 時間 10 分に短縮されました。

さらに、2013 年 3 月のダイヤ改正時には最高速度 320 km/h に引き上げられ、東京～新青森間の所要時間は 2 時間 59 分と、初めて 3 時間を切りました。2021 年 3 月のダイヤ改正で、上野～大宮間の速度向上（110 km/h→130 km/h）により、所要時間は最大 1 分程度短縮されました。(次頁表 2)



新青森駅（東口）

表 1 東北新幹線の全線開業までの経過等（開業後は参考）

年 月 日	項 目
1891年 9月 1日	東北本線全線開通
1971年11月28日	東北新幹線 東京～盛岡間着工
1982年 6月23日	大宮～盛岡間開業
1985年 3月14日	上野～大宮間開業
1991年 6月20日	東京～上野間開業
1991年 9月 4日	盛岡～青森間着工
1995年 5月29日	八戸駅起工
1996年12月25日	東北新幹線 八戸～新青森間フル規格決定
1998年 3月28日	東北新幹線 八戸～新青森間着工
2002年12月 1日	東北新幹線 盛岡～八戸間開業 総工費4,565億円 東京～青森駅が3時間59分で結ばれる (※八戸～青森間は在来線利用)
2008年 8月 1日	七戸（仮称）駅立柱式
2008年10月10日	新青森駅立柱式
2009年 7月29日	七戸十和田駅名称決定
2010年12月 4日	東北新幹線 八戸～新青森間開業 総工費4,547億円 東京～新青森間が3時間10分で結ばれる

2013年 3月16日	最高速度320km/h運転を開始 東京～新青森間が最速2時間59分で結ばれる
2013年 6月 4日	奥津軽（仮称）駅新築工事安全祈願
2014年 6月11日	奥津軽いまべつ駅名称決定
2016年 3月26日	北海道新幹線 新青森～新函館北斗間開業 総工費5,783億円 東京～新函館北斗間が3時間58分で結ばれる
2020年10月	盛岡～新青森駅間速度向上工事着手 (260km/h→320km/h) 最大5分程度短縮、工事期間は概ね7年程度
2020年12月 4日	東北新幹線全線開業10周年

資料：県鉄道整備促進期成会

表 2 東北新幹線高速化による所要時間

	区 間	営業キロ (km)	最高速度 (km/h)	所要時間	備考
全線開業前	東京～青森	727.9	275	3時間59分	新幹線（東京～八戸） 在来線（八戸～新青森）
全線開業後	東京～新青森	714.3	300	3時間10分	
2013年 3月	東京～新青森	714.3	320	2時間59分	
2021年 3月	東京～新青森	714.3	320	2時間58分	上野～大宮間の速度向上により 最大1分程度短縮

資料：県鉄道整備促進期成会、JR東日本

2 八戸～新青森間の概要

東北新幹線八戸～新青森間は線路延長 81.8km で、そのうち 62% はトンネル区間になっています。

八戸市から北西に向きを変え、五戸町、おいらせ町、六戸町、東北町、十和田市を通過し、七戸町の七戸十和田駅に至ります。その後、陸上のトンネルとしては国内 1 位の長さ（※）である八甲田トンネル

（26,455m）を通過し、青森市石江地区（奥羽本線との交差点）が最終地点になっています。



八戸～新青森間ルート

※ 現在建設中の北海道新幹線新函館北斗～新八雲（仮称）間の「渡島トンネル」（32,675m、予定工事期間：2024年5月まで）が完成すると、八甲田トンネルは陸上のトンネルでは国内第2位の長さになる。

3 東北新幹線E5系「はやぶさ」デビュー！

全線開業から3か月後の2011年3月5日、県民の期待を乗せた新型車両E5系「はやぶさ」がデビューしました。県内の新幹線各駅で出発式が行われたほか、関係者によるテープカットやくす玉開花など県内は祝福ムードに包まれました。



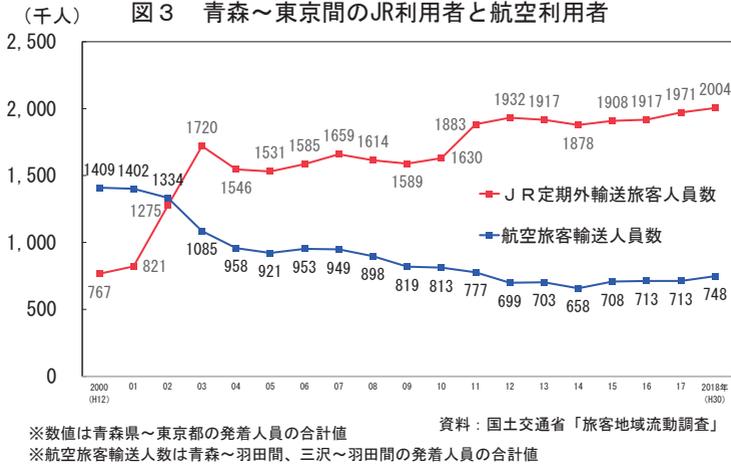
E5系新幹線「はやぶさ」

資料：JR東日本

4 東北新幹線利用者の推移

東北新幹線盛岡～八戸間開業以前の青森県・東京都間の輸送旅客数は、航空旅客輸送人員数がJR定期外輸送旅客人員数を上回っていましたが、2002年12月1日の開業以降はJR定期外輸送旅客人員数が上回っています。

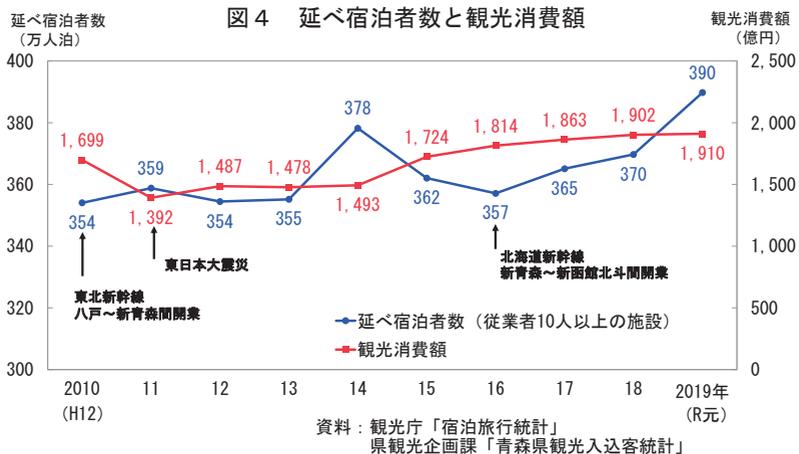
2020年12月4日の東北新幹線全線開業以降はさらにJR定期外輸送旅客人員数が増え、その後も増加傾向が続いています。（次頁図3）



5 経済効果

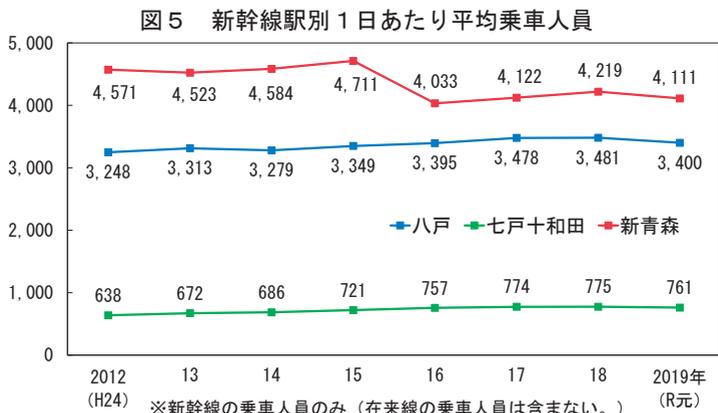
2010年の東北新幹線八戸～新青森間開業後、東日本大震災の発生による外国人観光客の減少などにより、観光消費額は2011年に大きく落ち込みましたが、その後は緩やかに増加傾向にあります。

一方、日本人と外国人を合わせた全体の延べ宿泊客数は、本県の場合、東日本大震災による影響はあまり見られませんでした。北海道新幹線新青森～新函館北斗間開業後は増加傾向にあります。(図4) 観光、ビジネスなど多くの分野で道南地域との交流が深まることで、「津軽海峡交流圏」の形成促進が期待されます。



6 東北新幹線各駅利用者数の推移

本県の東北新幹線の本県各駅1日あたり平均乗車人員は、北海道新幹線新函館北斗駅が開業した2016年に新青森駅が減少しましたが、その後は横ばい、八戸駅及び七戸十和田駅は横ばい～微増で推移しています。(図5)



資料：JR東日本「新幹線駅別乗車人員」

7 東北新幹線各駅乗車数ランキング

2019年の東北新幹線の駅1日あたりの平均新幹線乗車人員は、東京駅が75,004人、大宮駅が29,679人、仙台駅が26,653人となっています。

新青森駅は4,111人で10位、八戸駅は3,400人で11位、七戸十和田駅は761人で21位となっています。

(表6)

表6 2019年度駅別1日あたり平均乗車人員

順位	駅名	乗車人員(人)	順位	駅名	乗車人員(人)
1	東京	75,004	13	古川	2,748
2	大宮	29,679	14	一ノ関	2,218
3	仙台	26,653	15	新白河	2,135
4	宇都宮	13,233	16	北上	1,408
5	上野	11,902	17	くりこま高原	1,010
6	郡山	9,024	18	水沢江刺	970
7	盛岡	7,673	19	新花巻	900
8	福島	7,586	20	白石蔵王	891
9	小山	4,902	21	七戸十和田	761
10	新青森	4,111	22	二戸	760
11	八戸	3,400	23	いわて沼宮内	78
12	那須塩原	3,371			

※JR東日本エリア内にある駅の新幹線の乗車人員（定期と定期外の計）

※在来線の利用者は含まない。

※東京、大宮、上野は、東北以外の上越、北陸の各新幹線の乗車人員を含む。

資料：JR東日本「新幹線駅別乗車人員」

コラム①：謎に包まれた最新車両「ALFA-X」とは

JR東日本では、次世代新幹線の実現に向け、2019年5月に完成した試験車両E56系「ALFA-X」により、現在試験走行を行っています。

「ALFA-X」は

【Advanced Labs for Frontline Activity in rail eXperimentation】

（最先端の実験を行うための先進的な試験室（車））から名付けられており、2019年5月から2022年3月にかけて、東北新幹線仙台～新青森間を中心に試験走行を行っています。

「ALFA-X」の最高速度は400km/hにも達し、営業運転での最高速度360km/hの可能性を技術的に検証しています。最大の特徴は約22mにもなる先頭長で、トンネル突入時の圧力波を抑え、また騒音の抑制や省エネ運転の推進などにより環境性能を追求し、2030年度の開業を予定している北海道新幹線札幌延伸時でのデビューが期待されています。



「ALFA-X」 資料：JR東日本

コラム②：北海道新幹線もさらに便利に

2021年3月26日に開業5周年を迎えた北海道新幹線ですが、県では、令和2年12月31日～令和3年1月4日に青函トンネル区間210km/h営業運転が実施されたことを記念し、更なる利用促進と津軽海峡交流圏の形成を図るための動画を公開しています。

津軽海峡交流圏形成に向けた取組「ラムダプロジェクト」のシンボルキャラクター「マギユロウ」が圏域の魅力を紹介しているので、ぜひご覧ください。



特集 ② 東日本大震災から 10 年 復興の歩みと防災対策

2011年3月11日の教訓を生かすため、大規模災害の恐ろしさを再確認し、改めて災害に対する心構えを持ちましょう。

【地震の概要】

正式名称 平成23年(2011)東北地方太平洋沖地震
 発災日時 2011年3月11日14時46分
 震源地 三陸沖(北緯38°06.2'、東経142°51.6') 深さ24km
 規模 マグニチュード9.0
 県内の最大震度 5強
 (八戸市、東北町、おいらせ町、東通村、五戸町、階上町)
 津波の高さ 八戸市:4.2m以上(観測値)

【青森県の被害状況】(2012年11月30日現在)

人的被害 死者3名、行方不明者1名、負傷者95名
 住家被害 全壊308棟、半壊701棟、一部破損1,005棟
 被害額 約1,342億円
 最大避難者数 24,132名(2011年3月12日)



漁港に乗り上げたイカ釣り漁船



津波で流された車

写真提供:(地独)青森県産業技術センター食品総合研究所

1 「青森から元気を」復興に向けた取組

(1) 地域活性化、活力創出

災害に強い地域を目指して、防災施設のほか、防災にも配慮された公園や運動場が整備されました。

① 蕪島周辺地区の整備

被災した蕪島周辺の復興を目的に、三陸復興公園の北の窓口としてふさわしい空間の創出を行っています。蕪島周辺では営巣するウミネコの生態を観察できる蕪島休憩所が2015年にオープン。また蕪島から八戸市水産科学館マリエントまでの連続性を重視した蕪島プロムナード公園が整備されました。



蕪島プロムナード公園



蕪島休憩所

写真提供：(一財) VISIT はちのへ

② 八戸市津波防災センター

大津波警報発表時に避難が間に合わない場合の緊急的・一時的な避難施設、地震や大雨など大津波以外の災害時の避難所、平常時の防災活動の場として、2017年に八戸市沼館地区に整備されました。



③ 明神山防災タワー (おいらせ町)

大津波警報発表時に浸水区域外の大津波避難場所までの避難が困難な方々のための緊急避難施設として、2017年においらせ町松原地区に整備されました。



④ 八戸市多賀多目的運動場

津波による住家被害が八戸市で最も大きかった多賀地区の活力創出のための多目的施設です。天然芝球技場は、地元サッカーチーム「ヴァンラーレ八戸FC」のホームスタジアムとしても利用されています。

管理棟は最大クラスの津波から逃げ遅れた避難者のための一時避難施設にもなっています。



(2) 東北をひとつに

青森県から福島県まで続くみちのく潮風トレイルや三陸沿岸道路「復興道路」は、東北をひとつにつなぐ未来の礎（いしずえ）となります。

① 三陸復興国立公園

復興を目的の1つとした国内では前例のない国立公園で、2013年に指定されました。防災教育でも活用されています。

青森県では、八戸市の蕪島・種差海岸と階上町の階上岳・階上海岸などが指定されています。



② 三陸ジオパーク

八戸市から宮城県気仙沼市まで南北約220km、海岸線は約300kmに及ぶ三陸ジオパークが、2013年に日本ジオパークとして認定されました。青森県では蕪島、種差海岸、是川遺跡、階上岳などが見どころとしてジオサイトに登録されています。

③ みちのく潮風トレイル

八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの太平洋沿岸をつなぐロングトレイルで、日本一美しい断崖やリアス式海岸ならではの風景など、自然が織りなす圧倒的な美しさを体感できます。



④ 三陸沿岸道路「復興道路」の整備

沿岸地域の一日も早い復興を支援するとともに、八戸・階上地域と三陸沿岸地域の交流を促進するため、「復興道路」が整備されました。災害時の支援等ネットワーク機能の向上、医療サービスの向上、安定したエネルギー供給などが期待できます。



2 自分と家族の命を守る行動を！災害から身を守るには？

青森県で起こった過去の災害を教訓に、突然地震や津波などの災害に遭った際の正しい行動を確認しましょう。

(1) 青森県における過去の主な地震・津波

青森県は過去に何度も地震や津波の被害を受けています。死者を伴う地震も多く発生しているため、地震や津波に遭遇した場合の正しい非難行動について今一度確認しましょう。

表1 青森県における過去の主な地震災害・津波による災害

災害名（発生年月日）	災害規模	人的被害	被害額
チリ地震津波 (1960年5月24日)	マグニチュード 8.5	死者、行方不明者 3名	約27億円
十勝沖地震 (1968年5月16日)	マグニチュード 7.9 県内最大震度 5	死者 46名 行方不明者 2名 負傷者 671名	約470億円
日本海中部地震 (1983年5月26日)	マグニチュード 7.7 県内最大震度 5	死者 17名 負傷者 25名	約518億円
三陸はるか沖地震 (1994年12月28日)	マグニチュード 7.5 県内最大震度 6	死者 3名 負傷者 783名	約755億円
東北地方太平洋沖地震 【東日本大震災】 (2011年3月11日)	マグニチュード 9.0 県内最大震度 5強	死者 3名 行方不明者 1名 負傷者 95名	約1,342億円

①地震から身を守るには



頭を守る



机やテーブルの下へ入る



安全な場所に避難！

②津波から身を守るためには

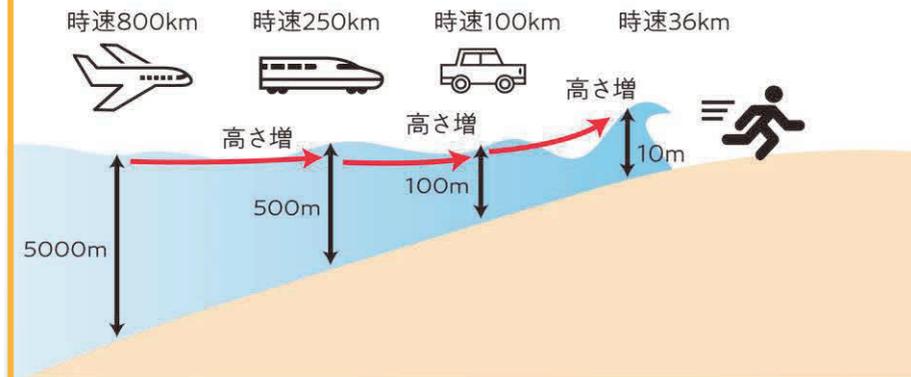
海辺や川岸から
とにかく離れるより高く
より遠いところへ高い建物を見つけたら
より高い階へ

○津波に注意！

～地震が来たら津波注意報・警報を待たずにすぐ逃げよう！～

津波はとても速いので、津波を見てから逃げたのでは間に合いません。急いで「より高く、遠いところ」を目指して、原則、徒歩で避難をしてください。

また、日頃からご自宅や職場近くの「津波の指定緊急避難場所」を確認し、いざという時の行動を家族で話し合っておきましょう。



(2) 青森県における過去の主な風水害

近年、大雨や洪水など局地的な災害が増加し、激しさを増しています。梅雨や台風の時期以外でも大雨や洪水が発生しており、小さい川でも洪水や浸水被害が起きるおそれがあります。

自分の住んでいる地域でどのような災害が起きる可能性があるか、日頃からハザードマップなどで確認しましょう。

表2 青森県における過去の主な風水害による被害

災害名（発生日月）	人的被害	被害額	特徴
大雨による災害 (1975年8月5日～7日)	死者 22名 負傷者 46名	約121億円	大雨による弘前市（旧岩木町）百沢地区の土砂災害等の被害
大雨による災害 (1977年8月5日)	死者 11名 負傷者 30名	約518億円	津軽地方を中心に大雨による洪水、土砂災害等の被害
台風第19号 (1991年9月28日)	死者 9名 負傷者 255名	約1,129億円	津軽地方を中心に急激に風が強まり、人的被害をはじめ、りんごの落果等の甚大な被害
台風18号 (2013年9月16日)	負傷者 1名	約115億円	大雨による岩木川や馬淵川等の川の氾濫等の被害

3 青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」



今、災害が起こったら誰が家族を守りますか？

もしも・・・あのととき・・・こうしておけば・・・こんなことにはならなかった・・・。起こってから後悔しないように日頃からの準備が必要です。

災害に対する準備や心構えには、各ご家庭に配布している青森県防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」が役立ちます。災害が起きた時にどうやって自分の命を守るのか、今からどうやって災害に備えたらよいかなど分かりやすくまとめられていますので、ご家庭の目につく場所に保管し、定期的に内容を再確認することが大切です。

自分や大切な人の命を守る「おまもり」として、内容をよく読み、防災に関する知識を身につけましょう。



「あおりおまもり手帳」は青森県庁ウェブサイトからダウンロードできます。

